View metadata, citation and similar papers at core.ac.uk

brought to you by CORE

国立国語研究所学術情報リポジトリ

6．調査項目の構築作業

著者	吉田 雅子
雑誌名	方言の形成過程解明のための全国方言調査 ： 「事前研究」報告書
ページ	209-259
発行年	2011-03-31
シリーズ	国立国語研究所共同研究報告 ； 10-03
URL	http://doi.org/10.15084/00002635

6．調査項目の構築作業

吉田　雅子

本章では，国立国語研究所共同研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」（略称「方言分布」，以下「方言分布 P」）において実施される「全国方言分布調査」の調査項目構築について，その経緯と内容を報告する。調査項目構築の実際の作業がどのように行われたかということを記録すること，どのような研究意図をもって作成された調査項目であるかという説明と解説をすること，この調査項目による調査結果の仮説提示と分析観点提示が本章の目的である。調査項目構築について報告することは，この共同研究プロジェクトの目的や方法を明確に説明することにつながるであろう。また同時に，この規模の方言研究プロジェクトの実施に際してかかるコスト（時間，人員，金額，付帯状況等）について報告することにつながり，今後同様のことを実行するときの一つの指標となるであろう。

以下，次の順に述べる。作業の概要（6.1.），調査項目選定の基本方針（6.2.），共同研究者による項目選定（6.3.），調査項目候補の検討内容（6.4.），調査票付図の作成（6.5.）。これは，実際の作業の時系列にも重なるものである。

6.1. 作業の概要

① 作業体制

調査項目の検討は，全国方言調査委員会を引き継いだ共同研究者が行った。氏名を以下に列記する（五十音順）。

朝日祥之，新井小枝子，大西拓一郎，沖裕子，狩俣繁久，岸江信介，木部暢子，小西いずみ，小林隆，渋谷勝己，杉村孝夫，高橋顕志，高木千恵，竹田晃子，都染直也，中井精一，日高水穂，舩木礼子，松丸真大，三井はるみ，鑓水兼貴，吉田雅子。

この中から，プロジェクトリーダーの大西より指名された者がワーキンググループ（以下「WG」）を構成し，本調査を実施するための具体的な内容を固める作業を行うこととなった。WG では作業内容に応じて細分化した班を設け，主担当を決めた。その構成は以下の通りである。

事前研究 WG メンバー（複数班所属あり）

・調査項目構築班（リーダー：吉田雅子）

　音韻項目：小西いずみ，竹田晃子

　語彙項目：新井小枝子，吉田雅子

　文法項目：高木千恵，日高水穂，舩木礼子

・調査結果データベース構築班（リーダー：鑓水兼貴）

　調査結果データベースの構造：松丸真大，鑓水兼貴

調査結果報告のコーディング構造：小西いずみ，鑓水兼貴

・言語地図データベース構築班（リーダー：竹田晃子）：竹田晃子，吉田雅子

このように各人の主担当を決めているが，実際の作業はWG全員で作業を行うことがほとんどであった。調査項目構築についても，WG全員で項目選定の基本方針を検討し，項目候補の内容検討を行った。

② 作業スケジュール概要

作業スケジュールにそって作業概要を述べると以下のようになる。

(1) WG組織（2009(平成21)年7月12日）

・今後の作業計画についての打ち合わせ

(2) WG打ち合わせ会の開催（2009(平成21)年11月28日～29日）

・WG作業についての打ち合わせ

・調査項目構築　基本方針案の検討

・データベース構築　基本方針案の検討

・言語地図データベース構築　作業内容の確認

・全体打ち合わせ会での提案準備

・準備調査結果の分析

・WG用メールアカウントの獲得

(3) 全体打ち合わせ会での提案と検討（2009(平成21)年12月20日）

・WG打合会の提案内容を全体会で検討

・調査項目案提出についての検討

(4) 共同研究者による項目選定（2009(平成21)年12月21日～2010(平成22)年1月6日）

・共同研究者による項目選定と，WGへの報告

・共同研究者による，項目選定についてのMLでの議論と検討

(5) WG打ち合わせ会の開催（2010(平成22)年1月30日～31日）

・提出された調査項目案の内容検討

・調査担当者の位置付けについての検討

・話者への対応についての検討

(6) WG打ち合わせ会の開催（2010(平成22)年3月1日～2日）

・提出された調査項目案の内容検討

(7) 全体打ち合わせ会での提案と検討（2010(平成22)年3月22日～23日）

・調査項目内容の検討

(8) 全体打ち合わせ会での提案と検討（2010(平成22)年5月22日～23日

・調査項目内容・調査票構成についての検討

調査項目について全体で検討するのは(8)の機会が最終となった。(1)から(7)までは，WGが主体となって検討を行い，その検討内容を共同研究者の全体打合会に提案するという作

業状況であった。

2010(平成22)年5月24日（月）以降，調査項目構築については全国方言分布調査事務局が作業を引き取り，とりまとめは全国方言分布調査事務局のメンバーである大西，竹田，鑓水，吉田が作業を行った。竹田，鑓水，吉田はWGと事務局とに所属しているので引き続き作業をする形になった。

2010(平成22)年6月～7月にかけて，調査票の整形，校正，印刷をおこなった。また2010(平成22)年9月までかけて，調査票付図の作成作業を行った。調査票付図については6.5.で詳しく述べる。

以上のスケジュールで作業進行する中，随時WGメンバー，共同研究者どうしでメールや電話を用いて議論や作業を実施し，事務局は研究事務・作業事務に従事した。

印刷会社より『全国方言分布調査　調査票』が納品されたのは2010(平成22)年7月26日，『全国方言分布調査　調査票付図』が納品されたのは2010(平成22)年9月28日であった。

③ 調査項目構築について

「方言の形成過程解明」という研究目的に照らして構築すべき調査項目であるが，その研究目的の他に考慮しなければならなかったのは，研究期間と外部評価である。設けられていた研究実施期間に遂行可能な調査を設計することがまず最初に求められた。また方言学界から必要とされ高い評価を得る研究成果を追究するほかに，現実問題として外部評価機関からの一律的一元的評価基準にも対応せざるを得ない事情から，研究計画に盛り込まれた事項もあった。

「方言の形成過程解明」という研究の価値と現実問題の相克に悩まされつつも，調査項目構築作業はWGの知を結集して行い，共同研究者が全力をかけて行っていると言っても過言ではない。

調査項目構築作業は，方言研究遂行の大きな作業の一つである。研究目的に照らして，構想の段階から温め醸成するものである。全国方言分布調査の準備調査である「全国方言準備調査」の調査項目を選定して「全国方言準備調査調査票」を作成し全国方言準備調査を実施したこと，その結果分析を併行しつつ本調査である全国方言分布調査の調査項目を構築したことをふまえると，WG組織よりずっと前から調査項目構築作業は始まっていたと言える。

全国方言分布調査は先行研究の『日本言語地図』（以下「LAJ」），『方言文法全国地図』（以下「GAJ」）と同じ調査項目も盛り込んでいるが，先行研究と同じ項目を調査するにしても，今回の研究目的に照らし合わせて，現在の研究水準を充たす，研究遂行可能な，意義のある調査項目とするために，一つ一つ検討を行った。今回の調査で採用した新規項目についても同様の観点から検討を行った。

また，「最良の調査票は調査終了後にできる」という方言研究のテーゼの通り，本調査実

施中の現在も，共同研究者は常に調査項目の観察・考察を続けている。調査項目はただ調査すればよい事項ではなく，研究の視点・研究テーマが調査項目という形で現れているものである。この調査項目にただ安住することはなく，常に研究意識を持って，最良の調査項目であるかを検討分析していることを考えると，調査項目構築作業は現在も形を変えて進行中であると言えよう。先に「調査項目構築作業はWGの知を結集して行い，共同研究者が全力をかけて行った」ではなく「行っている」と記したのはそのような理由による。

調査項目構築作業は調査の根幹に関わる大きな作業ゆえ，実際の作業負担も比例して非常に大きい。いちばん作業負担がかかるのは調査実施前の準備期間だが，本調査項目の具体的な構築作業ということに限っても2009(平成21)年7月から2010(平成22)年9月まで1年以上，WGの作業に限っても2009(平成21)年7月から2010(平成22)年5月まで10ヶ月という長い時間を要した。その間個人研究ではなく共同研究として，共同研究者同士が意を汲み，意見や見解の相違について説明に意を尽くしながら作業を進めることが必要だった。

調査項目構築に関わったWG，そして共同研究者も，その作業だけに注力できるわけではなかったのは当然で，別の研究業務や，大学での教育業務といった他の仕事も併行させているし，その間生活の常として病気や怪我や冠婚葬祭や引っ越しなどが生じ，大変な忙しさであった。十分な人員と時間が確保されれば言うことはないが，時間，人員，経費，作業環境にある程度の保障がなければ大規模調査の実施は困難であることも実感した。

大きな制約のある中，限られた時間で調査設計，調査項目構築を行うのは大変な作業だったが，研究そのものに取り組み，研究についてWGメンバーで語り合うのは誠に充実した時間でもあった。

6.2. 調査項目選定の基本方針

6.1.で述べたように，調査項目選定の基本方針についてはWGが2009(平成21)年11月に2日間にわたって行った打ち合わせ会で検討し，その内容を同年12月20日に実施された共同研究者全体打合会で発表し全体での検討を経て確定した。

6.2.では主に，2009(平成21)年11月に行ったWG打ち合わせ会の内容にそって，調査項目選定の基本方針が作られた経緯を述べる。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」事前研究WG打合会

・日時：2009(平成21)年11月28日（土）13:00～18:40
　　2009(平成21)年11月29日（日）9:30～17:00

・会場：国立国語研究所　419打ち合わせ室

【1日目：2009(平成21)年11月28日（土）13:00～18:40】

出席者は新井，小西，高木，竹田，日高，松丸，鑓水，吉田の8名。検討内容は，大きく分けると次の5点であった。方言分布プロジェクトのスケジュールと概要の確認，本調

査の概要（地点数，調査項目数，話者条件等），本調査項目の選定基本方針（目的，選定方法等），調査結果データベースの概要と構築方法，言語地図データベースの内容と構築方法。

① 方言分布プロジェクトのスケジュールと概要の確認

最初に，WG 作業全体について吉田が説明し，WG で検討した。内容については以下の通りである。

WG が「事前研究」に従事するにあたり，グループに分けてはいるが WG 全員で調査項目を構築し，調査結果データベースを構築するという方針で取り組むという体制を提案した。担当を細かく分掌するよりは，調査の全体像を見据えながら全員で意見を出し合い作業をする方がよいと思われたためである。この提案には全員の賛同が得られ，以後この体制で作業を進めることとした。

調査項目構築と調査結果データベース構築については WG が方針案を決め全体に提案説明する役割を担うということを説明した。１ヶ月後の 12 月 20 日に開催される全体打合会の時には，WG より，本調査の調査票構築案について，調査結果データベースのシステム設計について，言語地図データベースについて，の３点を報告するので，それに備えて，今回の打ち合わせでは，大西リーダーに確認すべきことをまとめ，その後，準備調査の結果を見ながら，調査項目選定構築・調査結果 DB 設計構築の検討作業を行うこととした。

また，全体のスケジュールを確認した。2009（平成 21）年度内に，本調査調査票が完成し，調査結果データベースシステムが完成していることが望ましいこと，2010（平成 22）年 4～6 月には調査担当者の決定と委嘱，調査担当者向けの講習会開催などが見込まれ，7 月以降夏休みの時期から本調査に入れることが望ましいことを説明した。

年度ごとの大枠としては次のようになる。

2009（平成 21）年度：準備調査結果の検討，本調査準備

2010（平成 22）年度：4～6 月本調査準備。7 月～本調査開始

2011（平成 23）年度：本調査実施

2012（平成 24）年度：本調査実施

2013（平成 25）年度：総括的な記述と分析のまとめ。報告書作成とデータ公開。論文執筆。

2013 年度より前の 2010～2012 年度にも，共同研究者は論文執筆が求められることも確認した。

また特に事前研究従事期間となる 2009（平成 21）～2010（平成 22）年度のスケジュールは，細かく立てた。この時点では，次のような計画であった。

- 2009（平成 21）年 10 月：方言分布 P 開始
- 2009（平成 21）年 11 月 28 日～12 月 14 日：WG による本調査項目構築作業，調査結果データベース構築作業
- 2009（平成 21）年 12 月 14 日締め切り：調査項目構築グループ毎に決めた項目構築案を吉田までメール送信。吉田はそれをとりまとめ，12 月 20 日の全体打合会で報告。な

お鑓水は調査結果データベースについて，竹田は言語地図データベースについて報告。

・2009(平成21)年12月20日：国研にて方言分布P全体打合会

・2009(平成21)年12月21日～2010(平成22)年1月7日：方言分布P全体打合会の内容検討

・2010(平成22)年1月7日～6月：本調査項目の決定，調査票印刷，調査実施準備，調査担当者の決定と委嘱，調査担当者向けの講習会開催，など

・2010(平成22)年7月～：本調査の実施

スケジュールを検討する中で，方言分布Pにかけられるエフォートについての議論があった。各人大学での勤務が忙しく，学生指導や入試業務など仕事が多くなり，自分の研究や論文執筆にすらまともに取り組めない状況になったと感じている昨今，当初計画にある1500地点分もの話者を確保し，他の人に調査に行ってもらえるよう依頼し，自分でも調査に行く，となると，想像を絶する忙しい状況になるであろうことが推測された。

次に，大西リーダーが記述した「共同研究プロジェクト概要」，「共同研究プロジェクト提案書」を読み，本プロジェクトの研究目的，研究計画・方法，期待される研究成果等について確認し，意見交換した。議論した例を挙げると次のようなものがある。

・現代の分布を調査して，方言周圏論を検証することは可能か。

・威光のある特定地域が周辺地域にどのように影響を与えているか，その影響がどのように分布に反映されているか，を読みとる調査と考えるべきか。

・研究目的をより明確にする必要があるのではないか。現時点では二つの目的，①LAJの分布がどう形成されたか，②実時間の分布パターンの解明，が混在しているといえないか。また，古い分布を再調査したいのか，それとも変化した分布を見たいのか，そのことも明確にすべきではないか。

・調査項目の選定にあたり，廃物語彙は対象とすべきか否か。

② 本調査概要（地点数，調査項目数等）の検討

スケジュールを把握し，研究目的・内容についての問題意識も共有した上で，次に本調査の大枠について，吉田が作成した【表１：調査の大枠について】をもとに検討した。

検討の観点は４つある。

ａ．調査地点総数は

ｂ．１地点の調査にかける日は

ｃ．調査項目数は

ｄ．調査規模は

これら４点について，それぞれに３～４個の選択肢を設けた。選択の参考になる事象として主に参照したのは，LAJ，GAJ，全国方言準備調査である。先行する全国規模の言語地理学的調査であるこれら３つの調査の事例を参考にしてWGで検討し，本調査の大枠については次のように計画した。

a. 調査地点総数については，全国方言調査委員会での検討段階で提案されていた 1500 地点を基準に選択肢を設けたが，スケジュールと共同研究者のエフォートを考慮した末，500 地点とした。これは，共同研究者と調査協力者を含む調査員が 50 人程度と見込まれると，各自が研究期間に調査に行ける地点数が 10 地点程度となり，この数ならば遂行可能と試算したことによる。また，2 年 8 ヶ月すなわち 32 ヶ月の調査期間で単純に割ると概算で初年度 8 ヶ月間が 116 地点，２年目と３年目は 192 地点ずつとなりこれも臨地調査遂行可能範囲と試算した。当初考案されていた 1500 地点は，継続のプロジェクトでこの数に到達させようという先々の計画も見越して立てた。

b. 1 地点の調査にかける日数については，a と同じくスケジュールと共同研究者のエフォートを勘案し，１日というものを選択した。

c. 調査項目数については，b と関わることであるが 1 日の調査と設定すると，200 項目というものを選択した。これは準備調査分析対象項目数の 50％にあたるものであり，準備調査結果を分析した後にこの項目数に絞り込むことも適正と考えた。

d. 調査規模については，「方言の形成過程解明」という研究目的に照らして，またその内容について共有した問題意識をふまえて，選択肢①と②の双方にわたるものを選択した。すなわち，今期と来期以降に分けて，質的に違いを設けた調査票を設計することを計画した。

【表：調査の大枠について】

	選択肢	参考
a. 調査地点総数は 2010(平成 22)年 7 月～2013(平成 25)年 3 月の 2 年 8 ヶ月の間に	①1500 地点 ②1500 地点以上 （具体的に＿＿＿＿地点） ③1500 地点以下 （具体的に＿＿＿＿地点）	・LAJ：1957(昭和 32)年-1964(昭和 39)年の 8 年間に 2403 地点， 1 年平均 300 地点。 ・GAJ：1976(昭和 51)年-1983(昭和 58)年の 8 年間に 807 地点， 1 年平均 100 地点。 ・本調査：6 年間で 1500 地点の場合， 初年度 8 ヶ月は 346 地点， 2 年度と 3 年度はそれぞれ 577 地点。
b. 1 地点の調査にかける日は	①2 日 ②1 日 ③半日 ④その他（具体的に＿＿日）	・LAJ：平均 1:30～2:30（LAJ 解説-方法-p30）。 ・GAJ：第 1 調査票と第 2 調査票それぞれに 1 日，合計 2 日。
c. 調査項目数は	①準備調査分析対象項目数 50%の 200 項目 ②200 項目以上 （具体的に＿＿＿＿項目） ③200 項目以下 （具体的に＿＿＿＿項目）	・準備調査： 質問文ベースで 音韻 14＋語彙 124＋文法 187＝325 項目 （音韻 4%，語彙 38%，文法 58%） 分析対象項目ベースで 音韻 32＋語彙 143＋文法 223＝398 項目 （音韻 8%，語彙 36%，文法 56%） ・LAJ：質問文ベースで 285 項目 ・GAJ：質問文ベースで 267 項目
d. 調査規模は	①全地点で全項目を調査 ②全地点調査項目と，要地調査項目とに分ける ③その他 （具体的に　　）	・LAJ：地点毎に調査項目の違いあり ・GAJ：全地点で全項目を調査 ・準備調査：全地点で全項目を調査

今期（調査期間は 2010(平成 22)年 7 月～2013(平成 25)年 3 月の 2 年 8 ヶ月）は，500 地点で一律 200 項目を調査する調査票を設計する。この調査票では，1 地点における調査日数を 1 日と想定する。

来期以降は，今期の調査結果をもとに地域区分や調査項目を選定した調査票を設計する。

地点数を加えていき，今期調査地点数と合わせゆくゆくは 1500 地点となることを目指す。調査項目数は 200 項目以下とし，全国一律調査項目と，地域別調査項目とを設ける。

以上の調査計画を図示すると，次のようになる。

今期

500 地点／200 項目

来期以降（今期の調査結果をもとに地域区分・調査項目を選定）

1000 地点？／200 項目以下？			
①全国	地域 A	地域 B	地域 C
	地域別		

地域 A の例：助詞サの類…東北・九州地方のみ

本調査の大枠案決定を受け，次に本調査項目の選定基本方針（目的，選定方法等）の検討に入った。吉田が以下のような原案の説明を行った。

調査項目選定の基本方針として，次の２点を挙げる。

（1）方言の形成過程解明を目的とする項目を選定する。

方言の形成過程を解明する定理理論は帰納的説明によるものと思われる。これまでの先行研究を分析し，帰納的に説明するための補強材料となるようなものを調査項目として選定したい。

（2）共同研究者が論文作成しうる項目を選定する。

共同研究者各自に，

A：必ず入れる調査項目　　５項目以内

B：入れてほしい調査項目　５項目以内

合計 10 項目以内の調査項目候補を挙げてもらう。A，B の各項目について，それを全国全地点で調査希望か，要地のみで調査希望かを報告してもらう。A は必ず採用し，その調査規模（全国調査か要地調査か）も必ず採用する。全部異なりとして，最大 5 項目×共同研究者 22 人＝110 項目となる。

この原案について，WG で検討した。

（1）については，方言の形成過程解明のためには話者の行動範囲や指向等をも調査する必要性があるという意見が出され，それらをフェイスシートで調べられるようにする，またはそれらについての質問項目を設けることが提案された。全国規模の社会調査で得られている各種統計データを利用することも考えたが，統計データと話者が一致するとは限らないため，本調査内でそれらも調べるということにした。

（2）については，先の検討で今回の調査では全国一律調査を実施することとしたため，項目についての調査規模提案は自動的になしということになった。

また1つの調査項目に複数の調査観点を盛り込むことをやめ，1項目1観点のシンプルな質問事項とすることにした。これは準備調査の検討もふまえてのことである。準備調査においては，調査時間と項目数の兼ね合いから1項目に複数の調査観点を盛り込んだワーディングを作成したものもあったが，複数観点を盛り込んだ調査項目採用によっての大幅な時間削減も見込めないことから，これはやめることとした。よってAB各項目の数え方もそれに即するものとすることにした。

ABには，準備調査にはなかった新規項目を入れることも可能とした。選定される項目は準備調査と同じ項目が多いであろうが，準備調査項目の中からと限定することはせず，（1）かつ（2）の条件を満たすものを採用することにした。

以上の方針を2009(平成21)年12月20日開催の全体打合会で説明し，その後共同研究者各自にABを選定し，2010(平成22)年1月6日17:00締め切りでWGに提出してもらうこととした。WG用のメールアドレスを取得し，そのアドレス宛にメール送信してもらい，そのメールがWGの9名に転送されWG全員が確認できるシステムを整えることにした。メールアドレス取得は鑓水担当とした。提出された選定調査項目のとりまとめは吉田が担当し，2010(平成22)年1月7日より本調査項目候補の検討を開始することにした。

続けて，2009(平成21)年7月11日～12日にかけて，全国方言調査委員会全体会議で検討した「全国方言準備調査の問題点」の内容を再検討した。「全国方言準備調査の問題点」は準備調査の項目を1つずつ検討し問題点をまとめたものである。これを見直し，以下の方針案を決めた。

・LAJやGAJと比較する項目は，基本的に調査文は変更しない。
・文法項目において，格を調査する項目は，調査目的の格が出やすいようワーディングを変更可にする方向で検討する。
・前項のようなワーディング操作によって，GAJと比較できない項目が出てくる可能性について，Aとして出された項目については問わない。
・項目選定の参考にするために，共同研究者全員に電子ファイル（エクセルファイル）の「全国方言準備調査の問題点」を送信する。

④ 調査結果データベース・言語地図データベースの概要と構築方法の検討

次に，調査結果データベースの概要と構築方法について，鑓水より基本方針の提案がされ，その内容について検討した。詳細は「7.調査結果データベースの構築」にゆずり，ここでは打ち合わせ時に出た調査項目構築に関わる点を抜粋して記述する。

データベース構築にあたり，まず最初に検討すべき点としては，本調査回答の入力形式，データベースのデータ形式がある。準備調査回答の入力及びデータベース構築は国研の事務局が行ったが，本調査ではどうするか。データベースを分析に適した形式にするにはど

うしたらよいか。これまでの検討と同様，スケジュールとエフォートを考慮し，かつ調査結果を調査終了後すみやかに分析のために使用できるようにするための方策を考えた。

この日の段階で決めた方針案は以下のようになる。

・調査票の形式は，片面のＡ４版で，綴じない形式を取る。これはコピーの際の利便を考えてのことである。また PDF データでの配布も予定する。
・調査票清書用の形式を，入力に即したものにする。
・調査票の提出方法は，調査者が，調査票のコピーを所持し，国研には調査票原本を提出する。
・提出用調査票には上質紙を使用し，再生紙は避けて，長期保存に備える。
・回答の入力については入力会社を利用する。共同研究者が分析や論文執筆等，研究に時間を取るための方策である。
・データ形式は GAJ データと同様にする。
・併用形式については，回答が複数あることがわかるフィールドを設ける。１回答が１レコードにすることになるが，注記との対応に考慮が必要であり，重複した注記があることを示す。
・１調査票を１ファイルに入力し，順次公開できるようにする。また分析の際の利便性を考えて，項目ごとに回答を切り出せるようにする。
・データベースは，データ更新の履歴が明確に表示されるようにする。これも分析の際の利便性の考慮である。
・記号については，「誘導語形を使わない」と回答したときの記号を設ける。また，誘導語形を使わないと回答かつ類似語形を回答した場合の記号を設ける。
・回答採用方針を設け，調査員によるばらつきがないようにする。
・採用回答語形の頭に○囲み数字をつけることで，不採用・誘導語形を区別する。

言語地図データベースの内容と構築方法については，竹田より現場の作業報告がなされ，今後の構築の構想と見通しについての発表があった。詳細は「8. 言語地図データベースの概要」にゆずる。

ここまで調査項目と調査結果データベース・言語地図データベースについて検討したことを受けて，次に問題になったことは，調査で得られたデータをどの範囲の人まで利用可能とするかということである。共同研究者以外の人，例えば調査実施者がその調査データを，どの範囲で利用できるのかということを確認しなければならないということになった。

また，共同研究者が国研の事物をどの程度利用できるのかを確認する必要があるという意見が出された。例えば図書室の利用などである。これらについては，大西リーダーに確認することとして，2009(平成 21)年 11 月 28 日の検討を終了した。

【2 日目：2009(平成 21)年 11 月 29 日（日）10:00～17:00】

出席者は前日と同様 WG の新井，小西，高木，竹田，日高，松丸，鑓水，吉田。これにリ

ーダーの大西が加わり，９名で検討を行った。検討内容は，大きく分けると次の３点であった。大西への前日検討内容報告，前日検討内容をふまえての調査票・調査項目検討，2009(平成21)年12月20日開催全体打合会の場での提案準備。

最初に吉田が，大西リーダーに前日の検討内容を報告した。本調査概要案，調査項目選定方針案以下全ての検討内容について異論は出されなかった。

確認事項であった，調査データの利用範囲については，大西より，調査データ利用範囲は各プロジェクトで個別に決めることになっているとの回答を得た。大西は，調査データは時期を決めて公開するのがいいという考えを述べ，一案として調査協力者への公開2013(平成25)年，一般公開2016(平成28)年というものが出された。

また，共同研究者を除く調査員への作業謝金と旅費は確保できる見込みであることも大西より報告され，地点数と調査員人数と１地点分の経費を考えて年度ごとの概算も試算した。共同研究プロジェクトには年に一回，公開の研究発表会が義務づけられていること，2009(平成21)年度内の研究発表会は，所内限定開催でよいことになっていることも，このときに情報を得た。

共同研究者が，国研の事物をどの程度利用できるのかという点については，詳細不明であったため，所外の共同研究者も国研図書室閉架書庫に入れるようにしてほしいという要望をWGから提出した。

また，大西リーダーも交えて，研究目的についてさらに検討した。WGからは，方言の形成過程の解明のためのアプローチとして挙げられている，

(a) 言語変化と地理空間の相関把握と分析―特に分布の経年比較

(b) 地理空間が有する地域特性と言語の関係の解明

(c) これまで知られていなかった分布の解明・発見

この中の(c)を，新たにアピールできる成果として重視すべきことを提案した。

⑤ 本調査概要（話者条件，調査地点選定等）の検討

続けて，「全国方言準備調査調査票」の内容にそって，本調査調査票の構成について検討した。内容については以下の通りである。

■調査票全体について

・調査票の形式：片面，Ａ４版，綴じない（コピーに便利），PDFデータで配布，などを検討する。

・絵カードの形式：クリアファイルに入れてめくれないようにする，などを検討する。

・構成：手引きを別冊にするか，検討する。生え抜きチェック項目を最初に用意し，調査をやめるタイミングも考慮する。

■フェイス・シートの改定点（改訂係：吉田）

経歴	・表記様式変更：○歳～○歳＿住んでいた場所＿　式にする。 ・小学校，最終学校：聞く。 ・在外歴：削除。（上記のような，年齢と住んでいた場所の列記により在外歴もわかる形式にする。）
その他	・備考欄を大きくする。

■話者の条件

年齢	・調査時点で 70 代以上（1940 (昭和 15) 年代生まれ）※ ・余人を持って代え難い場合は，1950 (昭和 25) 年以前までは許容（団塊の世代は採用しない）。 ※LAJ：1903 (明治 36) 年以前生まれ，1887 (明治 20) 年以降生まれが希望的。 基本的に 60 歳代で上限は設けない GAJ：1925 (大正 14) 年以前生まれ，原則として 60～75 歳
性別	・男女は問わない。 ∵女性のデータを得る。男女差を確認する。話者を確保する。 LAJ, GAJ との話者整合性を考えると男性に統一すべきともいえるが， LAJ, GAJ にも性差以外の属性差がある。
生育歴・ 居住歴	・生え抜きを基本とする。 ・言語形成期（15 歳まで）を除く移住は 5～10 年の範囲内とする。
職歴	・特に問わない。
その他	・調査の目的にかなう話者を選定する（地域コミュニティに属していて，くだけた場面で方言形が出る話者）。 ・都市部での話者選定は特に注意する。話者自身のインフォーマントとしてのイメージ（「自分は方言話者である」「自分は方言をほとんど話していない」など）があるだろうが，最終的には調査者が話者の適切性を判断する。

■調査地点

地点の選定	・基本的に，LAJ, GAJ の地点選出方法を踏襲する。 ・LAJ 解説 pp22-23 に地点選出方法の記述がある。これを参考に，人口，主要幹線道路，自然，歴史等を考慮し，共同研究者の地域担当者が選定について考慮する。
地点数	・各都道府県の地点数は以下のように算出する。 算出式　[GAJ の地点数×5/8＝今回調査地点数] (∵今回 500 地点，GAJ807 地点) この数に乖離する場合，是正する。

■調査方法

録音	・録音については，有無，提出とも求めない。

■語形・情報の報告・表記

調査時の表記については，WGより，カタカナ表記が提案された。IPAを使う必要がある地点のみIPAを使用することも合わせて提案された。調査回答の電子データ化は入力会社への外注という方針を考えてもカタカナがよいという意見が出された。大西からは，LAJ/GAJ でカタカナ表記による簡略表記法があったのでそれも可能だろうが，原則はカタカナ表記でIPA表記がオプションというのは難しいのではないかというコメントが出された。WGからはさらに，音韻レベルの表記を求めるということを大原則とし音声レベルはどの程度の表記を求めるのかを決めておく必要があるという意見を出し，この時点では次のことを決めた。

・音韻レベルの表記を求めることを原則とする。

・調査結果データベース構築担当が，次のことについて検討し決定する。

(1) カタカナ表記する地域，IPA表記をする地域の選定

(2) カタカナ表記体系

(3) IPA表記体系

(4) 注記の記載方法

以上，話者条件，調査地点選定等を中心に，本調査票構成案を検討した。このあと，グループ毎に分かれて，今後の作業方針について手順や方法を検討して，2009(平成21)年11月29日の検討を終了した。

⑥ WGメールアカウントの取得と利用

打合会終了後に鑓水が手配して，2009(平成21)年11月30日にWGのメールアカウントが開設された。このメールアカウントに送信したメールはWG全員に転送されるシステムにし，個別の作業でもWG全員が情報共有できるようにした。グループ内のやりとりの場合には，[DB] [項目]，[文法] [語彙] [音韻]など，件名の前にグループ名を明示するなどしてわかりやすいようにすることも申し合わせた。

大きなデータファイルを添付する場合は，その旨の予告メールをあらかじめ送信することも申し合わせた。また，万が一データファイルが大きくてメール添付として受信できなかった場合は，Gmail にログインし，過去のメールを参照してファイルをダウンロードすることができるようにした。

以後，このメールアカウントは随時利用された。最初に全員の送受信確認テストを行い，その後は2009(平成21)年12月20日開催の全体打合会での発表準備のためのやりとりが数多くなされた。WGは全体打合会までの正味20日間，調査設計のプレゼンテーション準備と，準備調査結果の分析に忙殺された。

6.3. 共同研究者による調査項目選定

2009(平成21)年12月20日に方言分布Pの共同研究者が集まり全体打合会が開催された。この場でWGは本調査設計作業の報告を行い，その内容を出席した共同研究者で検討した。ここでの決定にそって，共同研究者は選定した調査項目を提出した。

6.3.では主に，2009(平成21)年12月に開催された全体打合会の内容にそって，調査項目選定の基本方針が決まるまでの経緯を述べる。そして調査項目選定作業の経過について述べる。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」全体打合会

・日時：2009(平成21)年12月20日（日）13:00～17:09

・会場：国立国語研究所　多目的室

出席者は新井，大西，狩俣，岸江，木部，小西，小林，杉村，高木，高橋，竹田，中井，日高，松丸，三井，鑓水，吉田の17名。

議題は次の５つである。（　）内は発題者。

議題１．共同研究プロジェクトの概要・目的（大西）

議題２．本調査に向けてのWG報告と検討－内容・方法：項目，話者属性，地点数等－（吉田ほか調査項目構築WG）

議題３．本調査に向けてのWG報告と検討－調査結果データベース：データの共有化，利用ルール，公開－（鑓水ほか調査結果データベースWG）

議題４．先行研究言語地図データベースについて（竹田）

議題５．今後の予定（大西）

以下，調査項目に関わる議題２の内容について述べる。

議題２に際しては，「本調査に向けてのＷＧ報告と検討― 話者・調査項目等 ―」という配付資料を，調査項目構築担当（音韻項目G：小西いずみ・竹田晃子，語彙項目G：新井小枝子・吉田雅子，文法項目 G：高木千恵・日高水穂・舩木礼子）で共同作成した。配付資料の内容（目次）を示す。

１．事前研究ＷＧの作業経過と今後の作業予定

1.1. これまでの作業経過

1.2. 今後の作業予定

２．本調査の概要

2.1. 調査計画概要

2.2. 話者の条件

2.3. 調査地点

2.4 その他

３．本調査の項目

3.1. 調査項目選定の基本方針

3.2. 調査のワーディングについて

3.3. 共同研究者によるA,B選定について

4.準備調査の結果分析（現況報告）

4.1. 音韻項目

4.2. 語彙項目

4.3. 文法項目

「1.事前研究WGの作業経過と今後の作業予定」の内容は吉田が説明した。WG 発足の経緯，担当メンバーと作業体制，今回の報告発表はWGがこれまで行ってきた作業内容から抜粋して行うものであることを説明した。

6.2.で述べたものと一部重なるが，この時に共同研究者に示した内容を以下に抜粋する。

共同研究者に，研究期間（期限）を含め近々のスケジュールを把握してもらう必要があり，作業予定を示した。

「1.2. 今後の作業予定」

本日から，本調査実施までの期間の作業予定は以下の通りである。

※共同研究者：「共同研究プロジェクト組織表」掲載のメンバー＋竹田，鑓水，吉田。

事務局：共同研究者のうち，国研内部で方言分布プロジェクトのとりまとめに当たる者を指す。

大西，鑓水，吉田ら。

年月日	事項＜従事者＞
2009/12/20	・方言分布プロジェクト全体会議＜共同研究者＞
2009/12/21～ 2010/01/06	・方言分布プロジェクト全体会議の内容検討＜事務局＞ ・本調査項目の選定＜共同研究者＞
2010/01/07	・方言分布全体会議の内容検討打合会＜事務局＞
2010/01/07～ 2010/03	・準備調査結果の分析＜事前研究WG＞
2010/01 下旬	・事前研究WG打合会（本調査用調査票作成作業と調査結果データベース設計作業）＜事前研究WG＞
2010/01 下旬～ 2010/03/31	・本調査調査票項目・内容確定＆調査結果データベースシステム完成＜事前研究WG＞
2010/04～2010/06	・調査票印刷，調査実施準備，調査担当者の決定と委嘱，調査担当者向けの講習会開催，など＜事務局＞
2010/07～	・本調査の実施＜共同研究者＋調査担当者＞

次に本調査の概要について説明した。提示した資料は以下の通りである。

「2.本調査の概要」

方言分布プロジェクトの研究目的と研究計画にそって検討し，本調査の概要について以下の方針を決めた。

2.1. 調査計画概要

・今期（2009(平成21)年度～2013(平成25)年度）と来期以降に分けて，質的に違いを設けた調査票を設計する。

・今期（調査期間は 2010（平成 22）年 7 月～2013（平成 25）年 3 月の 2 年 8 ヶ月）は，500 地点で一律 200 項目を調査する調査票を設計する。この調査票では，1 地点における調査日数を 1 日と想定する。
・来期以降は，今期の調査結果をもとに地域区分・調査項目を選定した調査票を設計する。地点数を加えていき，今期調査地点数と合わせ，ゆくゆくは 1500 地点となることを目指す。調査項目数は 200 項目以下とし，全国一律調査項目と，地域別調査項目とを設ける。
・調査計画を図示すると，以下のようになる。

今期

500 地点／200 項目

来期以降（今期の調査結果をもとに地域区分・調査項目を選定）

1000 地点？／200 項目以下？			
①全国	地域 A	地域 B	地域 C
	地域別		

地域 A の例：助詞サの類…東北・九州地方のみ

・参考　方言分布プロジェクト本調査と，これまでの調査の比較

	本調査	参考
調査地点総数	2010（平成 22）年 7 月-2013（平成 25）年 3 月の 2 年 8 ヶ月の間に 500 地点。均すと初年度 8 ヶ月は 115 地点，2 年度と 3 年度は 192 地点。	・LAJ：1957（昭和 32）年-1964（昭和 39）年の 8 年間に 2403 地点，1 年平均 300 地点。調査員 65 名 ・GAJ：1976（昭和 51）年-1983（昭和 58）年の 8 年間に 807 地点，1 年平均 100 地点。調査員 93 名
1 地点調査日数	1 日	・LAJ：平均 1:30～2:30（LAJ 解説-方法-p30）。 ・GAJ：第 1 調査票と第 2 調査票それぞれに 1 日，合計 2 日。
調査項目数	質問文ベースで 200 項目	・準備調査： 質問文ベースで　音韻 14＋語彙 124＋文法 187＝325 項目 （音韻 4%，語彙 38%，文法 58%） 分析対象項目ベースで 音韻 32＋語彙 143＋文法 223＝398 項目 （音韻 8%，語彙 36%，文法 56%） ・LAJ：質問文ベースで 285 項目 ・GAJ：質問文ベースで 267 項目

2.2. 話者の条件

年齢	・調査時点で 70 代以上（1940 (昭和 15) 年代生まれ）※ ・余人を持って代え難い場合は，1950 (昭和 25) 年以前までは許容（団塊の世代は採用しない)。 ※LAJ：1903 (明治 36) 年以前生まれ，1887 (明治 20) 年以降生まれが希望的。 基本的に 60 歳代で上限は設けない GAJ：1925 (大正 14) 年以前生まれ，原則として 60～75 歳
性別	・男女は問わない。 ∵女性のデータを得る。男女差を確認する。話者を確保する。 LAJ, GAJ との話者整合性を考えると男性に統一すべきともいえるが, LAJ, GAJ にも性差以外の属性差がある。
生育歴・ 居住歴	・生え抜きを基本とする。 ・言語形成期（15 歳まで）を除く移住は 5～10 年の範囲内とする。
職歴	・特に問わない。
その他	・調査の目的にかなう話者を選定する（地域コミュニティに属していて，くだけた場面で方言形が出る話者)。 ・都市部での話者選定は特に注意する。話者自身のインフォーマントとしてのイメージ（「自分は方言話者である」「自分は方言をほとんど話していない」など）があるだろうが，最終的には調査者が話者の適切性を判断する。

2.3. 調査地点

地点の選定	・基本的に，LAJ, GAJ の地点選出方法を踏襲する。 ・LAJ 解説 pp22-23 に地点選出方法の記述がある。これを参考に，人口，主要幹線道路，自然，歴史等を考慮し，共同研究者の地域担当者が選定について考慮する。
地点数	・各都道府県の地点数は以下のように算出する。 算出式　[GAJ の地点数×5/8＝今回調査地点数] (∵今回 500 地点，GAJ807 地点）この数に乖離する場合，是正する。

2.4. その他

■フェイス・シートの改定点（改訂係：吉田）

経歴	・表記様式変更：○歳～○歳　住んでいた場所　　式にする。 ・小学校，最終学校：聞く。 ・在外歴：削除。（上記のような，年齢と住んでいた場所の列記により在外歴もわかる形式にする。）
その他	・備考欄を大きくする。

■調査方法

録音	・録音については，有無，提出とも求めない。

次に，本調査の項目について説明した。提示した資料は以下の通りである。

「3．本調査の項目」

本調査項目構成表

選定基本方針	共同研究者選択別調査項目	数
（1）方言の形成過程解明を目的とする項目を選定する。 （2）共同研究者が論文作成しうる項目を選定する。	A 共同研究者選定 必ず入れる調査項目	最大値 5項目×22人＝110項目
	B 共同研究者選定 入れてほしい調査項目	[200-A]項目 （最小値 200-110＝90項目）
	C 事前研究WG選定項目	

3.1. 調査項目選定の基本方針

方言分布プロジェクトの研究目的と研究計画にそって検討し，本調査項目選定については以下の2点を基本方針とした。

（1）方言の形成過程解明を目的とする項目を選定する。

（2）共同研究者が論文作成しうる項目を選定する。

・上記（2）に連関して，共同研究者より，採用したい調査項目を挙げてもらう。

A：必ず入れる調査項目　5項目以内

（必ず採用する。全部異なりとして，最大，5項目×22人＝110項目）

B：入れてほしい調査項目　5項目以内

合計10項目以内の調査項目候補を挙げてもらう。

・本調査項目にAを採用し，200項目からAの数を除いた残数の調査項目は，事前研究WGメンバーがBを極力考慮しつつ調査票全体のバランスを考えて選定する。Bとして挙げられておらずとも本調査に採用される項目を「C」と称する。BとCの選定については，事前研究WGメンバーが準備調査結果分析をふまえ，WGでの検討を経て共同研究者に諮り決定する。

3.2. 調査のワーディングについて

「全国方言準備調査項目の問題点」の内容を検討し，調査項目のワーディングについて以下の方針を決めた。

・1項目で2つ以上の事項を聞くことをやめ，1項目1調査焦点の，シンプルな質問項目にすることを原則とする。

・格の項目では，名詞変更可にする。例文に用意されている名詞ではねらいの回答が出にくいとき，ねらい回答が出やすい名詞に変更することを許容する。ただしそのことを調査票に明記する。

・LAJやGAJと比較する項目は，調査文は変更しないことを原則とする。

・共同研究者がAとして挙げる調査項目は，元はLAJやGAJと比較する項目である場合でも，調査文の変更や操作を認める。そのことによってLAJやGAJと比較できなくなる可能性がある場合でも，是非を問わないことを原則とする。

3.3. 共同研究者によるA，B選定について

共同研究者の皆さんは，上記3.1.の内容を鑑み，3.2.の内容に注意しながら，以下の要領で，AとBを選定してください。

■Aについて

・本調査調査票に必ず入る項目として，心して選んでください。

この項目を選定した理由，すなわちこの方言分布プロジェクトでこの項目を研究する意義

を論ずることができる。そういうレベルの項目を選択していただくのがよろしいかと存じます。この項目のデータが全国500地点で集まるとどのような研究ができるのか，どのような論文を産出できるのか，そこまで論ずることができるものを選んでいただく項目として，設定しています。

・調査文も挙げられたものをそのまま採用しますので，十分な検討をお願いします。

・挙げる数は，５項目以内とします。

■Bについて

・本調査に入れてほしい項目として，挙げてください。

Aとは違って必ず採用されるとは限りませんが，事前研究WGの検討の場ではBと挙げられたものとして尊重します。

・Aと同じく，調査項目に入った場合は調査文も挙げられたものをそのまま採用しますので，十分な検討をお願いします。

・挙げる数は，これもAと同じく，５項目以内とします。

■選定と報告について

・A,Bとも，準備調査項目から選ばれることが多いかと思いますが，準備調査項目にはなかった新規項目を選んでいただくことも可能です。

・調査文や調査項目の趣旨について，必要な場合には事前研究WGから問い合わせをし，共に検討していただくことも考えられます。そのような折には御協力ください。

・選定したA,B各5項目以内を，「メール本文」または「メール添付ファイル」として，送信してください。

送信締め切り日　【2010H22年1月6日（水）17:00】

A,Bとして挙げていただく項目は，事前研究WGメンバー全員が把握します。

2010H22年1月7日（木）に事務局で方言分布プロジェクトについての打合会を行いますので，その前日までに送信お願い申し上げます。

・この件についてのお問い合わせは，吉田までお願いいたします。

（転載以上）

続けて，「４。準備調査の結果分析（現況報告）」では，調査項目別に各担当より別紙にそって説明が加えられた。この内容は，本報告書の「５。本調査に向けた準備調査結果の分析」で示している。

以上の内容を全体打合会で報告し，出席した共同研究者で内容を検討した。主なる検討内容を以下に述べる。

・調査のワーディングについて

形態音韻論的な事項によって助詞のでかたが変わることがある場合の対処について検討した。GAJのワーディングでは形態音韻論的な考慮がなされていなかったということもあるので注意が必要であるという意見が出された。

・来期について

研究期間について，「今期」と「来期」とされる期間を確認し，それぞれで実施予定の調査規模，調査地点数，調査項目数について検討した。調査項目には今期で調査終了項目と，

来期も継続する項目とを設定することを確認した。分布が密になる必要がある項目は1500地点で調査することを目指し，今期の500地点で分布が出れば経年的な調査がなくてもそれで十分という項目もあろう予測を立てていることを説明した。

・調査法について

準備調査において回答が得られにくかった項目については予想語形を挙げることが提案され，採用することにした。

語形を得るタイプの質問ばかりでなく，「言うか言わないか」タイプの調査も採用することとした。

LAJ, GAJ で出てきた語形は必ず確認することが方言形成を知る手がかりとなり，誘導で出てくる形式があるので調査者にはLAJ, GAJの予習を義務づけることが必要であるという意見が出され，これを受けて調査票に予想語形を挙げる項目を設けることと合わせて，予習をするという方向で進めることとした。

琉球地域での調査方法については，予想語形が多くなること，注記で対応するにしてもそれも多くなること，予想語形を尋ねることは古形の誘導になる可能性があること，などの問題点が出された。方言分布Pの調査では，琉球においては，琉球方言と共通語というバイリンガルのうち，共通語を調べているということになり，共通語調査になってしまうという大きな問題点がある。これに対しては，分析の手法に合わせて質問のしかたを変えるというやりかたで対処するという案が出されたが，言語地理学の手法と原則に従えば質問方法やワーディングを統一する必要があることも指摘され，決定的な結論はこの時点では出なかった。(以後もこの点は問題点として挙げられ，継続検討している。)

・録音について

WG 提案では必須とはしなかったが，「話者に許可を取った上で録音することを原則とする」とする方がよいという意見が出された。調査の正確を期すために録音の聞き直しをすることは必須であること，後進を育てるという面で調査の方法を教える意味でも，録音は必要であり義務づける方がよいこと，などの意見も出され，検討の結果，調査時には録音を原則とすることとした。その旨を「調査の手引き」に記載することも決めた。国研事務局は，録音/公開にかかる承諾書の作成を検討することとした。

・成果発表の形態について

大西リーダーからは方言分布Pの研究成果物としての言語地図集は出さないということが示されていたので，成果物の形式や公開発表頻度はどのようなものかという質問が出された。調査項目の選定に関わってくる現実的な問題として質問されたが，それに対する大西の回答は「論文を基本に考えている。データを共有化し，データが全部集まらない途中段階でも，それで論文を書いてもらう」というものだった。

・調査項目選定について

「新規項目も可」したことについて，準備調査の結果を生かさずに本調査をすることに

なることの懸念から，新規項目は禁止すべきではないかという意見が出された。これに対してWGからは,新規項目を禁止することで現時点の検討で問題があるとコメントされている準備調査項目を変えられないことの問題性を指摘した。また新規項目を可能にすることで，準備調査項目に候補として挙がっていたが最終的に入れられなかった項目を，準備調査結果を見て復活させることなどができる利点も指摘した。加えて，準備調査の結果分析から，500 地点で結果が出るかどうかについては共通語化か従来どおりの分布か，どちらにせよ分布の動きは見えない可能性が高いと推測されたこと，新しい分布が出るものがあれば新規で加えたいと考えこのように提案したことを説明した。地点数も当初予定の1500地点から500地点に減らしたので，この提案のような対処はさらに必要性が高まったと考えていることを述べた。

「調査項目選定の基本方針」で示した，

（1）方言の形成過程解明を目的とする項目を選定する。

（2）共同研究者が論文作成しうる項目を選定する。

については，議論が集中した。2つのレベルが違いすぎるという意見，（2）については共同研究者の利己主義だという趣旨の意見が出された。

また，成果発表に関わることであるが，A として挙げる項目については論文執筆が義務化されるか否かという議論がなされた。論文作成は義務か，論文作成ではなく調査結果公開では成果と見なされないのか，という質問も出た。調査項目選定は事務局が200項目を出し，共同研究者に項目を割り振ってそれについて分析を書かせるという方式を取ることにより，項目に偏りが出ることを避けてはどうかという意見も出された。

一方，国研が独立行政法人から大学共同利用機関法人に変わり，研究上の立場も変わって，（1）（2）のような方針を立てるということになったのだろうと理解している，というコメントも出された。

論文化の他，データベース公開も人間文化研究機構は推奨しており地図刊行も重要視されると考えられるので，考慮に入れておく方がよいという情報も提供されたが，大西リーダーは言語地図集不刊行の方針は変えなかった。

全体打合会終了時刻や他の議題を残していることもあり，議題2についてはここでいったん検討と議論を収束させ，次の議題検討に移ったが，この日の全体打合会では議題2の内容に再び立ち入る時間はなかった。調査項目構築作業における重要事である調査項目選定方針について十二分な議論は尽くしきらないまま，WGの提案通り，共同研究者に調査項目案ABを2010(平成22)年1月6日締め切りで提出してもらうことになった。

調査項目選定方針と研究成果に関して，共同研究者間で意見がまとまらなかった理由の一つには，国研の移管という背景があるだろう。

国立国語研究所は，独立行政法人から体制を変え大学共同利用機関法人となったが，そのことが研究プロジェクト自体にどう反映するのか見えにくい部分があった。

独立行政法人の場合は国研という機関が主導し調査研究を行うが，大学共同利用機関法人の場合はその下部組織の人間文化研究機構内で，集まった研究者が共同研究として組織し実施する調査研究となる。その違いについてリーダーが説明をしても，違いの実態を実感を持って把握することは難しく，非常に時間がかかったといえよう。

移管後も「国立国語研究所」という名称は変わらず，本研究プロジェクトに関わるメンバーも（基本的には）変わらない。本プロジェクトは独立行政法人の時代から移管後も継続して行われるものであった。

そして全国規模の言語地理学的調査を行うという点ではLAJ, GAJと同様であり，研究方法はLAJ, GAJをほぼ踏襲するものであり，LAJ, GAJと分布の経年比較を行うことも標榜している。

大学共同利用機関法人となっても，研究自体は「国立国語研究所」がLAJ, GAJと同じ全国規模の言語地理学的調査を行うのである。他大学他機関ではなされたことのない，全国規模の言語地理学調査はこれまで国研が主導して行ってきたが，今回もまた（従来の国研ではなく体制を変えた，だが名前は同じ）「国立国語研究所」が方言分布プロジェクトを行うということで，本プロジェクトはLAJ, GAJの後継調査だと目されることもあったであろう。

そういうプロジェクトであるのに，言語地図集を作成しないこと，言語地図集という形で分布を把握することよりも個人が論文作成しうるということを優先させて調査項目を選ぶことに，種々の疑問を抱くことも不思議ではない。

全体打合会の３日後，共同研究者の小林より，共同研究者間で使用しているメーリングリストを通じて，大西リーダー宛に質問が寄せられた。内容は方言分布プロジェクトの研究方式や，研究目的や，研究成果のあり方とその義務についてであり，全体打合会では議論を尽くせず明確な方針回答が得られなかったので，調査項目選定や調査員推薦のためにも質問したいというものであった。

これに対しては大西リーダーが回答し，またWGもWGメールアカウントを利用してWGとしての方針や考えを再検討したのち，調査項目選定についての追加説明という形で回答を寄せた。WGのメールによる追加説明は，以下のような趣旨である。

・方言分布プロジェクトは「方言の形成過程解明」を目的とする“共同研究”と理解している。だから，共同研究者が「方言の形成過程解明」についての論文を書くことがこのプロジェクトの目的を遂行することにつながる，と考えている。
・「共同研究者が５項目を出す」としたのは，「方言の形成過程解明」のために，各人が論文を書けるような項目を５項目出す，ということである。プロジェクトの目的から外れたテーマで個人的な論文を書くための項目ではない。
・WGは，「共同研究として，共同研究者は「方言の形成過程解明」をテーマとした論文を必ず書く」という前提を考えていた。本調査項目選定の基本方針としてWGから，

（1）方言の形成過程解明を目的とする項目を選定する。

（2）共同研究者が論文作成しうる項目を選定する。

このように2点挙げたが，この2つは別個のものではなく，この方針にそって項目を挙げてもらうための主旨は1つにまとめらる。

「方言の形成過程解明を目的とする項目のうち，自分が担当したい項目を挙げよ。」

＝「方言の形成過程解明を目的とする項目のうち，自分が論文化したい項目を挙げよ。」ということである。

・WGが「本調査項目として，Aを5項目，Bを5項目挙げよ」としたのは，共同研究者が「方言の形成過程解明」をテーマとした論文を書くにあたり，担当したい項目として挙げて欲しいというのが主旨である。Aが5項目，Bが5項目としてあれば，共同研究者の意向も何らかの形で汲み取れると考えたものである。Aを最優先で採用し，B,CはAとのバランスを考えながら「方言の形成過程解明」という目的を達成できる項目を選ぼうと考えていた。

・「方言の形成過程解明」をテーマとした論文執筆は義務。しかし「努力義務」。挙げた項目について論文化しなくてもよいが，何らかの項目で，「方言の形成過程解明」をテーマとした論文を書くことは義務（努力義務）と考える。

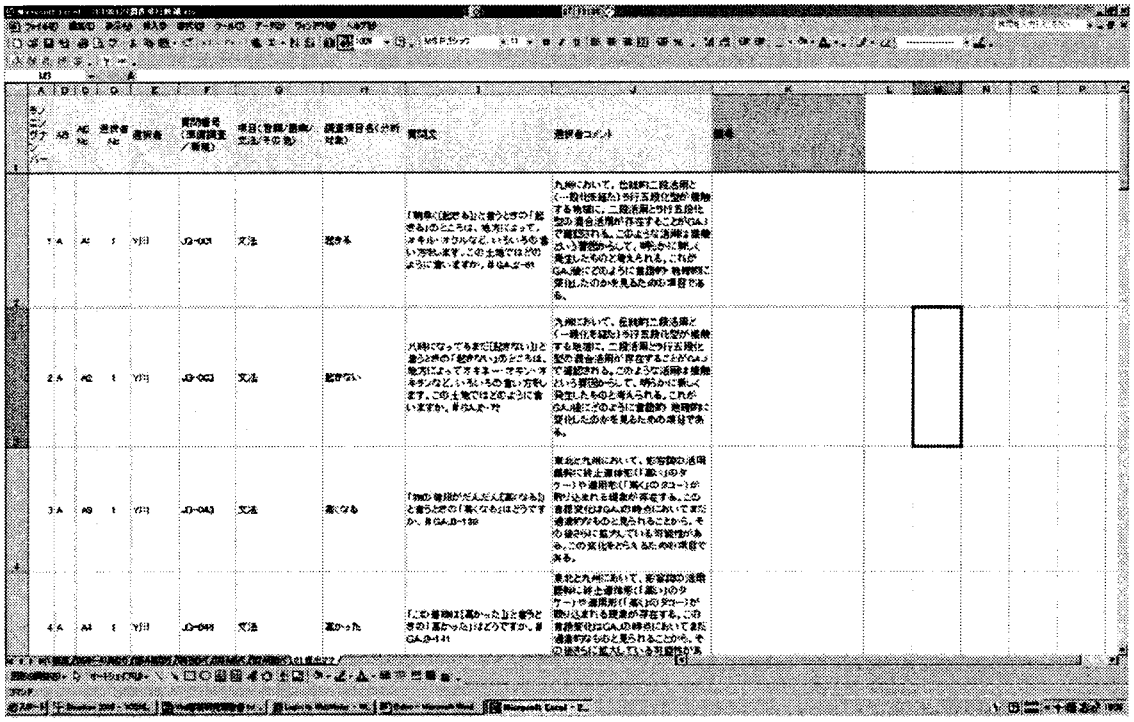
大西リーダーとWGからの回答に対しては，小林より「このプロジェクトの根幹に「分布の変動・経年比較」があるものと理解していたが，このことと実際の項目選定作業とを繋ぐ“調査全体の構想”が十分見えてこないので，とまどっていた。この点についての議論がほとんどなかったところが少々心残りである」というコメントと，調査項目選定の観点についてまとめられたレポートが，共同研究者メーリングリストに送られた。

コメントは，本プロジェクトにおける共同研究者間での検討のあり方について反省を促されるものである。また「調査項目選定の観点」についてのレポートは，方言分布プロジェクトの研究目的の曖昧だった部分・文言を具体化して記述したものであり，項目選定作業に際して非常に参考になり，大きな助けとなるものであった。

以上の通り，全体打合会と，メーリングリストでの検討・議論を経たのち，研究目的の達成をめざして，また期限に追われて，共同研究者により本調査項目選定は行われた。全体打合会が2009(平成21)年12月20日，項目を選定しそれをWGに送信する締め切りが2010(平成22)年1月6日であったから，共同研究者は年末年始にこの作業を進めた。

吉田がそれを取りまとめ，電子データ化した。具体的には，エクセル表に1項目1行でまとめていき，今後の作業の便を図ったのである。その一部を次ページに示す。

【提出された調査項目候補をまとめたエクセル表（部分）】



共同研究者は年末年始に調査項目選定提出作業に取りかかり，吉田はそのとりまとめを行ったが，吉田の作業実時間でいうと，年末年始の休みがない状態になった。研究所は 12 月 29 日から 1 月 3 日まで閉まってしまうので自宅での作業となったが，提出される調査項目のとりまとめと，それに伴う諸確認作業，全体打合会の議事録作成や，関連するプロジェクトの作業にかかりきりとなり，暮れ正月がなかった。この規模の調査研究プロジェクトにおいて，調査項目の提出ととりまとめの時は，繁忙期となるため，十分な人員と時間を確保することが望ましいといえよう。

22 名の共同研究者から提出された項目候補は全部で 211 項目。具体的な内訳は以下のようになった。

	音韻	語彙	文法	合計
A 項目	5	28	67	100
B 項目	1	22	59	82
合計	6	50	126	182
準備調査質問文ベース	4%	38%	58%	
準備調査分析対象ベース	8%	36%	56%	

6.4. 調査項目候補の検討内容

共同研究者22名から提出された調査項目候補を検討し，調査票の形にするまでの経過を報告する。

経過の概要は次のようになる。

・2010(平成22)年1月30日～31日　WG打合会での検討
・2010(平成22)年3月1日～2日　WG打合会での検討
・2010(平成22)年3月6日～15日　共同研究者への確認作業
・2010(平成22)年3月22日～23日　全体打合会での検討
・2010(平成22)年3月24日～5月21日　国研事務局内での検討
・2010(平成22)年5月22日～23日　全体打合会での確認
・2010(平成22)年5月24日～7月26日　国研事務局内での検討，調査票の整形，校正，印刷
・2010(平成22)年7月26日　『全国方言分布調査　調査票』納品

この期間は以前にも増して多忙となった。調査項目構築作業自体が佳境となるし，加えて2010(平成22)年3月には国研内での研究室移転引っ越し作業と事務局員の疾病・冠婚葬祭が相次ぐ事態となった。方言分布P作業の多さと，それに従事する人員態勢が見合わず，事務局員は連日膨大な作業に忙殺された。

以下，経過概要にそって，調査項目候補検討の作業経過を述べる。

① WGでの検討

この期間に，WGでは2回の検討会を行った。初回検討会の内容は次のようになる。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」事前研究WG打合会
・日時：2010(平成22)年1月30日（土）13:00～18:00
　　2010(平成22)年1月31日（日）　9:30～17:30
・会場：国立国語研究所　412方言研究室

検討内容は，大きく分けると次の3点である。本調査調査項目の検討，調査結果データベース構築について，調査担当者について。

出席者は1月30日は新井，小西，高木，竹田，日高，松丸，鑓水，吉田の8名。1月31日は初日の8名に大西リーダーを加えた9名であるが，大西は調査担当者についての検討の際に同席したのみで調査項目の検討には加わっていない。

以下，調査項目検討作業の内容について述べる。

吉田は，取りまとめた調査項目候補の一覧に，検討に必要な観点も加えたエクセル表を作成した。各列次のような表である。

A列　ランニングナンバー
B列　AB別
C列　AB別ナンバー

D列　選択者ナンバー

E列　選択者

F列　質問番号（準備調査／新規）

G列　項目（音韻/語彙/文法/その他）

H列　重複

I列　分類

J列　調査項目名（分析対象）

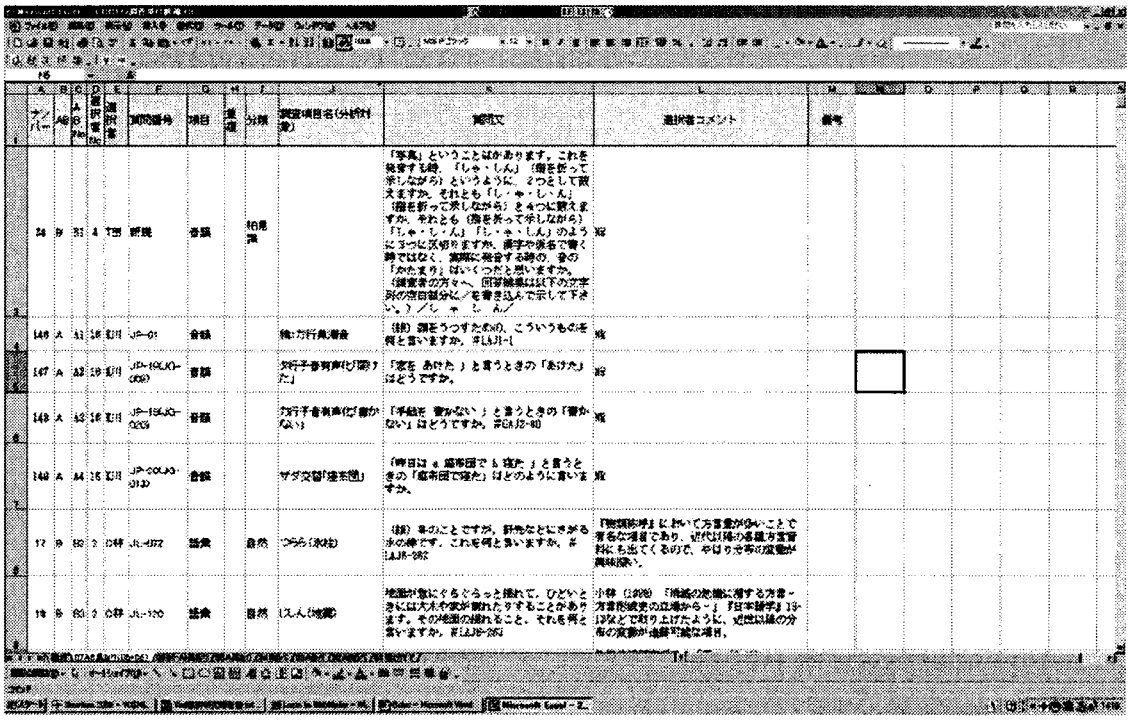
K列　質問文

L列　選択者コメント

M列　備考

これを「G列　項目」,「I列　分類」の優先キーで並べ替え，音韻・語彙・文法の順に並ぶようにし，その中も分類毎に並ぶようにした。準備調査票の配列にならい，本調査票の形式に添うであろう配列にした。その一部を以下に転載する。

【調査項目構築検討用エクセルシート（部分）】



このプリント冊子をWGメンバーに配布し,同時に研究室のプロジェクタで同じエクセル表を映し出して，その場で１項目ずつ確認検討作業を行った。あらかじめ国研図書室から言語地図データベースに収載した言語地図文献を運び込み，随時参照しながら作業を行った。

紙プリントも使いながら，電子データ上でも編集作業を行い，それを全員で確認しながら作業できたのは便利だった。文明の利器による便利さを実感しつつ，このようなものの

なかったかつてのLAJ, GAJの時の作業の大変さがしのばれた。だが今回も，文明の利器は使いながらも，作業はべたべたの基礎作業であることは同じである。かつては紙での作業だったのが電子データ上での作業になってコピー等の付随する作業には便利になったけれども，研究作業としてはかつてと同じことを行ったと言っていいだろう。

まずは全体の構成を把握した上で，１つ１つの項目を順番に見ていった。「I列　分類」，「J列　調査項目名（分析対象）」に記載のないものにはその情報を付与した。「K列　質問文」は共同研究者から提出された質問文だが，そのワーディングが適切かを検討して必要ならば文言を変えた。調査票付図の新規作成が必要な項目についてはその具体的な絵柄について検討した。また調査項目全体構成に関わることとして，項目の順番を適切になるように並べ替えたり，項目の構成比と整合性を検証したり，調査にかかる時間を考慮し全体量を考えたりした。インフォーマントが回答しやすい項目かを考慮し，あらためて質問項目が研究目的に合致するものかどうかを客観的に見直す作業も行った。

質問の目的や意図について，より明確にする必要があるものについてはその項目提出者に問い合わせることとし，その問い合わせ内容を検討した。

全国方言調査として，地域における調査項目のバランスも考え，以下のような項目を選定，加えることを決めた。琉球方言を主たる観点とする項目，北海道方言を主たる観点とする項目，大都市や中核地方都市を観点とする項目である。琉球方言を主たる観点とする項目については，WGが平山輝男・大島一郎・中本正智(1967)『琉球先島方言の総合的研究』（明治書院）を参照し，鹿児島・京都・本土方言との関連が見いだせる語彙項目が適切と考え，仮調査項目として名詞７項目，動詞５項目，形容詞１項目を挙げて，それらについて九州地方・琉球地方担当共同研究者の杉村，木部，狩俣に検討項目として諮ることにした。北海道方言を主たる観点とする項目については，北海道・東北方言の関連が見いだせる項目を，北海道・東北地方担当共同研究者の竹田と日高が考案することにした。

また，年度ごとに報告対象とする「速報用」項目を設けることも検討した。

調査項目の検討は，この２日間では終了せず，もう１回WGでの検討会を行うことを決めた。

２回目の検討会は，以下の要領で行った。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」事前研究WG打合会

・日時：2010(平成22)年３月１日（月）13:00～17:30
　　2010(平成22)年３月２日（火）9:00～17:00

・会場：国立国語研究所　412方言研究室

出席者は両日とも新井，小西，高木，竹田，日高，松丸，鑓水，吉田の８名。検討内容は，大きく分けると次の４点である。本調査調査項目の検討，調査結果データベース構築について，調査担当者について，2010(平成22)年３月22日-23日開催全体打合会の場での提案準備。

吉田は前回打合会での検討内容をふまえた調査項目検討のエクセル表を用意した。各列次のような表である。

A列　WGナンバー

B列　AB別

C列　AB別ナンバー

D列　選択者

E列　質問番号（準備調査／新規）

F列　項目（音韻/語彙/文法/その他）

G列　分類

H列　調査項目名（分析対象）

I列　質問文

J列　選択者コメント

K列　備考

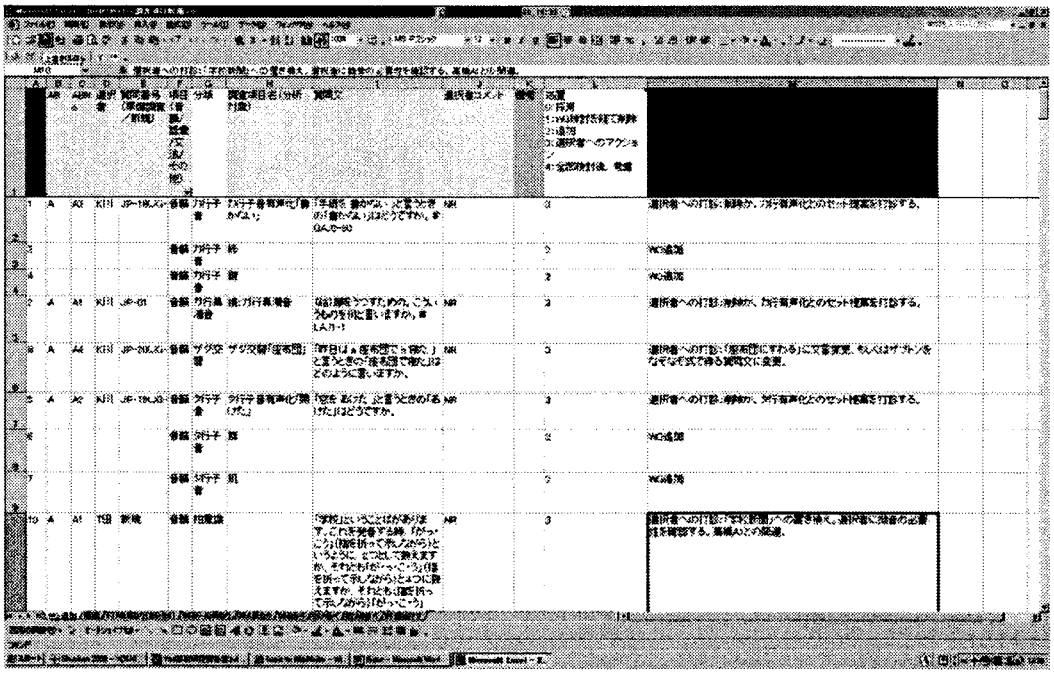
L列　処置

M列　WGのコメント（2010/01/30-31）

これを「F列　項目」,「G列　分類」の優先キーで並べ替え，音韻・語彙・文法の順に並ぶようにし，その中も分類毎に並ぶようにした。「L 列　処置」には次の事項を入力した。0:採用，1:WG検討を経て削除，2:追加，3:選択者への問い合わせ後採用予定，4:全部検討後考慮

エクセル表の一部を以下に転載する。

【調査項目構築検討用エクセルシート（部分）】



前回の打合会と同様，プリント冊子とプロジェクタに映し出される電子データとの両方を使いながら，続きの検討を行った。語彙項目担当の新井，文法項目担当の日高からは，準備調査結果分析の追加報告も提出され，それらも合わせて見ながら検討を行った。

この３月の打合会で，全調査項目についてWGでの検討を終えた。行った作業を列挙すると次のようにまとめられる。項目数の調整，項目内容のバランス調整，調査配列順の設定，ワーディングの吟味，選択肢がある項目における選択肢の検討，項目提出者への確認事項の検討。

以上のWG検討会での作業内容をふまえ，調査項目候補を吉田がエクセル表にまとめることになった。それを共同研究者全員にメールで送り，加えて各自に確認質問事項を送り，2010(平成22)年3月22日・23日に開催される全体打合会に向けての事前検討を依頼することにした。

② 共同研究者への確認作業

WGでの検討内容をふまえた調査項目一覧の作成が終わり，共同研究者に依頼する作業要領も作り終えて，共同研究者用のメーリングリストでそれらを送り，連絡を行ったのが2010(平成22)年3月6日である。全員への共通の連絡を行った後，共同研究者に別個，確認質問事項を問い合わせるメールを送信した。質問に対する共同研究者からの回答は，WGメールアカウントに送信してもらうようにし，WG全員が把握できる状態にした。回答返信の締め切りは2010(平成22)年3月15日午前9時とした。回答内容を取りまとめ，2010(平成22)年3月22日・23日に開催される全体打合会での検討準備のためである。

この時点で取りまとめた調査項目候補一覧である「20100306 調査項目候補。xls」ファイルの一部を，次ページに転載する。

また，共同研究者に送信した作業要領である「全国方言調査　調査項目検討について」の内容を，以下に転載する。

20100306本調査項目候補

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	●項目に関して話者をつなぎ合わせるのお名前	●WGが付した仮ナンバー	●A項目かB項目かの区別	●選択者が付した凡例・複数から	●項の択者凡	●準備調査での質問番号．もしくはLAJ/GAJでの質問番号．・新規．	●「音韻」「語彙」「文法」の3	●便宜的に付けた分類．	●便宜的に付けた調査項目名．		●現時点での質問文．細かい表現などは，配列順決定後に調整する．・「～のところはどのようにいいますか」を基本的な文言にする．・「#GAJx-yyy(zzz)」のように，質問番号も必ず加える．地図化はされていなくても国語は資料一覧にあり．比較できる．	■M列処置　凡例 0：採用予定 2：検討後決定 5：削除予定		
2			AB	ABNo	選択者	質問番号	項目	分類	分析対象	分析対象	質問文	発言者：コメント	処置	絵関連メモ
3	★KJH	1	A	A3	KJH	JP-18(JG-020)	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	書かない：カ行子音有声化	M	「手紙を 書かない 」と言うときの「書かない」はどうですか。#GAJ2-80	WG：削除か，カ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
4	★KJH	2	A	A1	KJH	JP-01	音韻	ガ行鼻濁音	鏡：ガ行鼻濁音	M	（絵）顔をうつすための，こういうものを何と言いますか。#LAJ1-1	WG：削除か，カ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
5	★KJH	3	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	柿：カ行子音有声化	M	（検討中）	WG：KJHさんにA1,A3の代替候補として提案する。	2	
6	★KJH	4	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）＋ガ行鼻濁音	鍵：カ行子音有声化＋ガ行鼻濁音	M	（検討中）	WG：KJHさんにA1,A3の代替候補として提案する。	2	
7	★KJH	5	A	A2	KJH	JP-19(JG-009)	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	開けた：タ行子音有声化	M	「窓を あけた 」と言うときの「あけた」はどうですか。	WG：削除か，タ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
8	★KJH	6	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	旗：タ行子音有声化	M	（検討中）	WG：KJHさんにA2の代替候補として提案する。	2	

全国方言調査　調査項目検討について

目次

1.「20100306 調査項目候補。xls」ファイルの説明
2.全体打合会に向けての事前検討について

1.「20100306 調査項目候補。xls」ファイルの説明

・「20100306 調査項目候補。xls」は，共同研究者の皆さんから出していただいた調査項目候補をとりまとめ，事前研究 WG の検討結果をまとめたエクセルファイルです。

・現時点での検討のとりまとめであることをご了承の上，ご確認ください。内容については，共同研究者各人に種々確認を取らせていただきながら，さらに検討を重ねる必要があります。

・シートは２つあります。

シート　1）提出ママ

シート　2）20100306 検討

・「シート　1）提出ママ」について

2010 年 1 月 6 日締め切りで皆さんから出していただいた項目候補をまとめたものです。
のべで 211 項目挙がっています。参考のため付けております。

・「シート　2）20100306 検討」について

事前研究 WG は，1/30-31，3/1-2 の２回４日間，打合会を行い，調査項目内容を検討しました。全項目候補の検討を終え，内容をまとめたものです。採用候補が 197 項目，不採用候補が 19 行分あります。特に，こちらのシートを作業用にご確認いただきます。

シート凡例（シートの１行目にも載せています）

列	列名称	説明
A 列	確認	項目に関連して問い合わせをするかたのお名前。 NR：不問
B 列	No	WG が付した仮ナンバー。
C 列	AB	A 項目か B 項目かの区別。 凡例 A：A 項目として挙げられたもの（選択者が複数あり，１つでも A 項目と挙げられている場合は A と表示。） B：B 項目として挙げられたもの（A 項目という指定は１つもなかったもの。） N：New。WG が新規に加えたもの。
D 列	ABNo	選択者が付した A1 ～B5 までのナンバー。 凡例 ・複数者から選択されている場合，スラッシュで区切って示した。提示順は D 列の「選択者」提示順と同じ。 ・N：New。WG が新規に加えたもの。
E 列	選択者	項目の選択者名。 凡例 ・複数者から選択されている場合，＆でつないで示した。提示順は C 列の「ABNo」提示順と同じ。

		・WG：WGが加えたもの。
F列	質問番号	準備調査での質問番号，もしくはLAJ/GAJでの質問番号。 ・新規：新規項目として出されたもの。
G列	項目	「音韻」「語彙」「文法」の3つに分けた。
H列	分類	便宜的に付けた分類。文法項目の頭に付いている数字は並べ替えのための仮番号。
I列	調査項目名（分析対象）	便宜的に付けた調査項目名。
J列	質問文	現時点での質問文。細かい表現などは，配列順決定後に調整する。
K列	選択者コメント	選択者が複数いる場合は，コメントの頭に名前を付した。
L列	処置	凡例 0：採用 2：追加 3：選択者へのアクション後採用予定 4：全部検討後、考慮 5：WG検討を経て削除
M列	WGのコメント	（打合会でのメモ。）

2．全体打合会に向けての事前検討について

・事前研究WGより，共同研究者の方に，調査項目の趣旨等についておたずねしたいことがあります。

各調査項目候補について，A列「確認」にお名前が挙がっている方に，後ほど個別に問い合わせのメールを送らせていただきます。まずは現時点での本調査項目候補全体に目を通し，そしてA列にお名前のある項目にご注目ください。

・調査項目に関する問い合わせのメールへのご返信は，事前研究WGメンバー用MLのアドレス に送信してください。事前研究WGメンバー全員が把握できるようにするためです。

・問い合わせへの返信の締め切りは，【3月15日（月）午前9:00】とさせていただきます。3月22日（月）開催の全体打合会にて本調査項目について検討しますので，その準備のため，御協力くださいますよう，どうぞよろしくお願い申し上げます。

・この件についてのお問い合わせは，吉田までお願いいたします。

（転載以上）

共同研究者への個別の確認例を次に挙げる。個人宛メールで，確認項目を抜き出したエクセル表を添付ファイルとして送り，それを参照しながらメール本文内の質問を見てもらう形式にした。

例として，「K川」さんへの質問確認は以下のような文面を送った。

K川様
吉田雅子@国立国語研究所です。
方言分布プロジェクトの，事前研究WGを代表して，メール差し上げます。
先に，「[jdc:00005] 本調査項目候補と事前検討について」のメールをお送りしましたが，その中で申し上げました，個別の問い合わせをさせていただきます。
添付のエクセルファイルの「K川」シートをご覧ください。
「2) 20100306検討」シートより，A列「確認」に「★K川」とあるものを抜き出してあります。
以下，B列「No」の数字を示しながら４点，おたずねします。
N列の「個別質問」が質問番号に対応します。

■質問１：No1, 2, 3, 4について
A1 (No2) でガ行鼻濁音の項目，A3 (No1) でカ行子音の項目を挙げていらっしゃいますが，これをやめて，No3, No4のようにするのはいかがでしょうか。
A1 (No2) の JP-18は，「書かない」という文法項目も併せ持っていましたが，1項目1調査焦点という方針になりましたので，「柿」と「鍵」で聞いてはどうかと考えました。
この項目について，変更する場合は，新質問文もお作りください。

■質問２：No5, 6, 7について
A2 (No5) で夕行子音の項目を挙げていらっしゃいますが，これをやめて，No6, No7 のようにするのはいかがでしょうか。
A2 (No5) の JP-19は，「あけた」という文法項目も併せ持っていましたが，1項目1調査焦点という方針になりましたので，「旗」と「肌」で聞いてはどうかと考えました。
この項目について，変更する場合は，新質問文もお作りください。

■質問３：No8について
A4 (No8) でザダ交替の項目を挙げていらっしゃいますが，これについて質問文を「「座布団にすわる」はどのように言いますか」に文言変更，もしくはザブトンをなぞなぞ式で得る質問文に変更するのはいかがでしょうか。
A4 (No8) の JP-20は，「寝た」という文法項目も併せ持っていましたが，1項目1調査焦点という方針になりましたので，ザダ交替に特化しての質問文にしてはどうかと考えました。
この項目について，変更する場合は，新質問文もお作りください。

■質問４：No9について
音韻項目について，全国調査に含めるものとしては四つ仮名の項目がよいかという話題がWG検討時に出ました。
しかし，この種の全国調査において，音韻項目は大変難しいことも理解しております。
四つ仮名の調査項目は入れない，ということも含めて，ご意見をいただけますでしょうか。
また，上記の質問１～３についても同様，音韻項目全体としてのご意見をいただければと存じます。
音韻項目は削除，ということもあり得ると思いますし，ワーディング等工夫して音韻項目を盛り込む，ということもあると思います。

音韻項目全体についてのお考えをお示しください。

以上の質問１～質問４について，ご回答お願い申し上げます。
ご返信は【３月１５日（月）９：００】までにお送りください。
ご多用中誠に恐れ入りますが，どうぞよろしくお願い申し上げます。

（メール引用以上）

また①でも述べたとおり，琉球方言を主たる観点とする項目を選定する方針から，共同研究者の狩俣，木部，杉村に，次のような依頼メールを送信した。

狩俣先生，木部先生，杉村先生
吉田雅子@国立国語研究所です。
方言分布プロジェクトの，事前研究ＷＧを代表して，メール差し上げます。
先に，本調査項目について，個別の問い合わせをさせていただきました。
今回は，このメールに添付しているエクセルファイルの，「九州琉球」シートをご覧ください。
「2) 20100306 検討」シートより，A 列「確認」に「★狩俣★木部★杉村」とあるものを抜き出してあります。
No31 の１つだけなのですが，これに関連して，おはかりしたいことがございます。
事前研究ＷＧの検討時に，「琉球方言を主たる観点とする調査項目を加えたい」という意見が出ました。10 項目ほど，候補に加えたいと思います。
九州地方・琉球地方ご担当である，杉村先生・木部先生・狩俣先生に，この点についてご意見をいただきたくお願いいたします。
ＷＧでは，
平山輝男・大島一郎・中本正智 (1967)『琉球先島方言の総合的研究』明治書院
を参考に，鹿児島・京都・本土方言との関連が見いだせる語彙項目が適切ではと考え，仮候補として以下を選出しました。
（添付の pdf ファイルもご覧ください。対象ページをコピーしています。）

凡例
No. 語彙【調査の着目点】(『琉球先島方言の総合的研究』のページ)
(1) 名詞
1. 大晦日【琉球：ツシヌユー類，「つごもりに対応」】(p. 201)
2. 本（書物）【琉球：ムチ類，「書物」と対応。GAJ「珍しい本ですね」と対照？】(p. 265)
3. 結（労働交換）【社会構造と連関する，琉球の特徴的語彙】(p. 266)
4. 米【琉球：マイ類。杉村先生の候補 JL-030「うるち」との関連】(p. 283)
5. 稲【琉球：マイ類】(p. 339)
6. 暴風【琉球：オーカゼ類・タイフー類，琉球の特徴的語彙】(p. 322)
7. さとうきび【琉球方言内でのバラエティ】(p. 342)
(2) 動詞
8. 教える【琉球：ナラースン類，「習わせる」に相当】(p. 451)
9. 叱る【琉球：ユウン類，「言う」に相当】(p. 453)
10. 売る【琉球：カースン類，「買わせる」に相当】(p. 455)

11. 買う【琉球：ウ音便との関連】(p. 456)
12. 貸す【琉球：カラス類，「借りさせる」に相当】(p. 457)
(3) 形容詞
13. 美しい【LAJ047「ああ、虹がきれいだ」との対照？。琉球の特徴的語彙】(p. 498)

これら 13 語ですが，候補としてはいかがでしょうか？「これは適切」として選んでいただいたり，「これは不適切」として却下していただいたり，「これはこの語と差し替える方がよい」という代替候補を挙げていただいたり，そのような観点からのご教示をお願いいたします。
10 項目前後，加えられればと思っております。ご検討くださいませ。
ご返信は【３月１５日（月）９：００】までにお送りください。
ご多用中誠に恐れ入りますが，どうぞよろしくお願い申し上げます。

（メール引用以上）

共同研究者による確認作業期間は 2010 (平成 22) 年 3 月 6 日から 15 日の 9 日間，正味 8 日間と短かったが協力が得られた。寄せられた回答は吉田が取りまとめ，2010 (平成 22) 年 3 月 20 日にはエクセル表として共同研究者全員にメーリングリストで送信し，2010 (平成 22) 年 3 月 22 日開催の全体打合会の場ではこれをプリントアウトした冊子を配布することを予告した。全体打合会に先立ち，共同研究者が調査項目候補を電子データの形ではあるが確認できるようにした。

③ 全体打合会での検討

2010 (平成 22) 年 3 月 22 日・23 日の両日にわたり，方言分布 P の共同研究者が集まり全体打合会が開催された。ここでは全体打合会の内容にそって，調査項目選定検討作業の経過について述べる。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」全体打合会
・日時：2010 (平成 22) 年 3 月 22 日（月）13:00～18:30
・会場：国立国語研究所　多目的室

出席者は新井，大西，沖，狩俣，小西，小林，高木，高橋，竹田，都染，中井，日高，舩木，松丸，三井，吉田の 16 名。

議題は次の２つである。（　）内は発題者。

議題１. 担当地域・協力者・地点数の検討（大西）

議題２. 調査項目・内容の確定（吉田）

以下，調査項目に関わる議題２の内容について述べる。

配付資料は「20100322 本調査項目候補」，「20100322 本調査項目候補リスト」の 2 つを用意した。「20100322 本調査項目候補」は 2010 (平成 22) 年 3 月 20 日にメーリングリストで送信した電子ファイルの冊子版，「20100322 本調査項目候補リスト」は前者ファイルの抜粋版である。一部を次ページ，次々ページに転載する。

1

20100322本調査項目候補

方言分布P 20100322
0:採用予定 2:検討後決定 5:不採用予定

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1			AB	ABNo	選択者	質問番号	項目	分類	分析対象	主目的	質問文	発言者：コメント	結果	絵関連
2	★KJ川	1	A	A3	KJ川	JP-18(JG-020)	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	書かない：カ行子音有声化	基	「手紙を 書かない 」と言うときの「書かない」はどうですか。#GAJ2-80	WG：削除か，カ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
3	★KJ川	2	A	A1	KJ川	JP-01	音韻	ガ行鼻濁音	鏡：ガ行鼻濁音	基	（絵）顔をうつすための，こういうものを何と言いますか。#LAJ1-1	WG：削除か，カ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
4	★KJ川	3	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	柿：カ行子音有声化	基	（検討中）	WG：KJ川さんにA1, A3の代替候補として提案する。	2	
5	★KJ川	4	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）＋ガ行鼻濁音	鍵：カ行子音有声化＋ガ行鼻濁音	基	（検討中）	WG：KJ川さんにA1, A3の代替候補として提案する。	2	
6	★KJ川	5	A	A2	KJ川	JP-19(JG-009)	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	開けた：タ行子音有声化	基	「窓を あけた 」と言うときの「あけた」はどうですか。	WG：削除か，タ行有声化とのセット提案を打診する。	2	
7	★KJ川	6	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	旗：タ行子音有声化	基	（検討中）	WG：KJ川さんにA2の代替候補として提案する。	2	
8	★KJ川	7	N	N	WG	新規	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	肌：タ行子音有声化	基	（検討中）	WG：KJ川さんにA2の代替候補として提案する。	2	
9	★KJ川	8	A	A4	KJ川	JP-20(JG-013)	音韻	子音/ザ行とダ行の交替	座布団：ザダ交替	基	「昨日は a 座布団で b 寝た 」と言うときの「座布団で寝た」はどのように言いますか。	WG：「座布団にすわる」に文言変更，もしくはザプトンをなぞなぞ式で得る質問文に変更するのはどうか。	2	
10	★KJ川	9	N	N	WG	JP-08, JP-09, JP-10, JP-11	音韻	子音/四つ仮名	フジ、フヂ、スズ、ミヅ	基	（検討中）	WG：音韻項目として入れるべきかを検討する。	2	

【20100322 本調査項目候補リスト】

1　　20100322本調査項目候補リスト　　方言分布P20100322

	AB	ABNo	選択者	質問番号	項目	分類	分析対象	主目的	更新
1	A	A3		JP-18(JG-[illegible])	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	書かない：カ行子音有声化	M	2
2	A	A1		JP-01	音韻	ガ行鼻濁音	鏡：ガ行鼻濁音	M	2
3	N	N		新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）	柿：カ行子音有声化	M	2
4	N	N		新規	音韻	子音/語中子音の有声化（カ行）＋ガ行鼻濁音	鍵：カ行子音有声化＋ガ行鼻濁音	M	2
5	A	A2		JP-19(JG-[illegible])	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	開けた：タ行子音有声化	M	2
6	N	N		新規	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	旗：タ行子音有声化	M	2
7	N	N		新規	音韻	子音/語中子音の有声化（タ行）	肌：タ行子音有声化	M	2
8	A	A4		JP-20(JG-[illegible])	音韻	子音/ザ行とダ行の交替	座布団：ザダ交替	M	2
9	N	N		JP-08, JP-[illegible]	音韻	子音/四つ仮名	フジ、フヂ、スズ、ミツ	M	2
10	A	A1		新規	音韻	拍意識/文字意識	がっこう：拍意識/文字意識	Nv	0
11	B	B1		新規	音韻	拍意識/文字意識	しゃしん：拍意識/文字意識	Nv	2
12	N	N		T田A1, T田B1を受けての討作	音韻	拍意識/文字意識	がっきゅうしんぶん：拍意識/文字意識	Nv	2
13	N	N		JL-001	語彙	自然/虫/軟体動物	かたつむり（蝸牛）	M	2
14	N	N		JL-003	語彙	自然/虫/昆虫	かまきり（螳螂）	M	2
15	A	A1		JL-010	語彙	自然/動物/は虫類	とかげ	M	0
16	A	A1 (JP)		JL-004	語彙	自然/虫/昆虫	とんぼ（蜻蛉）	M	0
17	A	A4		新規	語彙	自然/虫/昆虫	ありじごく（蟻地獄）	Nv	0
18	N	N		JL-005	語彙	自然/虫/昆虫	ぼうふら（蚊の幼虫）	V	2
19	B	B1		JL-029	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	かぼちゃ	M	2
20	N	N		JL-023	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	じゃがいも（馬鈴薯）	M	2
21	B	B3		JL-024	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	さつまいも（甘藷）	M	2
22	N	N		JL-025	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	さといも（里芋）	M	2
23	N	N		JL-026	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	やまいも（山芋）	C	2
24	N	N		JL-027	語彙	生活/農林業/穀物・芋類	イモの意味	M	2
25	A	A1 (JP)		JL-019	語彙	自然/植物/野草	ひがんばな（彼岸花）：名称	M	0
26	B	B5		JL-019	語彙	自然/植物/野草	ひがんばな（彼岸花）：語源意識	Nv	2
27	B	B5		JL-019	語彙	自然/植物/野草	ひがんばな（彼岸花）：利用方法	Nv	2
28	A	A1		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	かいこ（蚕）	Nv	0
29	A	A4		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわ（桑）	Nv	0
30	A	A2		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわのみ（桑の実）：名称	Nv	0
31	A	A3		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわのみ（桑の実）：利用方法	Nv	0
32	N	N		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわばたけ（桑畑）：名称	Nv	2
33	N	N		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわばたけ（桑畑）：土地の上位概念	Nv	2
34	N	N		新規	語彙	生活/農林業/養蚕	くわばたけ（桑畑）：有無	Nv	2
35	N	N		JL-067-b	語彙	生活/住生活/建具・道具・屋外	いど（井戸）：水汲みの場所	Nv	2
36	N	N		JL-067-a	語彙	生活/住生活/建具・道具・屋外	いど（井戸）：名称	M	2
37	A	A6		JL-030	語彙	生活/農林業/米・米作	うるち（粳米）	M	0
38	B	B2		JL-035	語彙	生活/食生活/素材・食品	ひきにく	Nc	2
39	N	N		新規	語彙	生活/食生活/素材・食品	ニクの意味	Nc	2
40	N	N		新規	語彙	生活/食生活/素材・食品	ニクの意味：総称	Nc	2
41	N	N		新規	語彙	生活/食生活/素材・食品	ニクの意味：種類	Nc	2
42	N	N		新規	語彙	生活/食生活/素材・食品	ニクの意味：多用するもの	Nc	2
43	A	A1		JL-013	語彙	自然/魚介類	うろこ（鱗）	M	0
44	A	A2		JL-014	語彙	自然/魚介類	<蟹の>こうら（甲羅）	C	0
45	A	A3		JL-022	語彙	自然/植物/実・葉等	<柿の>へた（蒂）	C	0
46	A	A4		新規	語彙	自然/植物/実・葉等	<茄子や苺の>へた（蒂）	C	0
47	A	A5		JL-048	語彙	人間/人体/皮膚・傷等	かさぶた	C	0

この資料にそって，WGの調査項目構築担当の音韻グループ，語彙グループ，文法グループより，それぞれの項目選定についての経過説明を行った。その後，共同研究者全員で，1項目ずつ順番に内容について検討を行った。検討内容についてはその場で竹田が電子ファイルに加筆入力して記録した。調査項目全体を把握しながらの1項目ずつの検討であるから，行きつ戻りつの作業で，時間がかかった。この日には全項目の検討を終えることができず，翌日23日9:00より412号室において調査項目の検討の継続作業を行うことを決め，18:30に閉会した。

2010(平成22)年3月23日は，調査項目選定会議と共同研究発表会とを開催した。共同研究発表会が14:00～16:00に開催され，それを除いた残りの時間は調査項目選定会議にあてた。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」調査項目選定会議

・日時：2010(平成22)年3月23日（火）9:05～12:30，13:15～13:45，16:00～17:30

・会場：国立国語研究所　412方言研究室

9:05～12:30，13:15～13:45の出席者は，新井，大西，高橋，竹田，日高，舩木，松丸，吉田の8名。16:00～17:30の出席者は新井，大西，竹田，日高，舩木，吉田の6名である。

前日に引き続き，残りの調査項目候補の検討を行い，一通り全項目の検討を終えた。しかしまだ個別に確認したり検討したりする事項が残されており，調査項目構築が完成したわけではなかった。引き続き，国研事務局内で，残された課題にあたりながら調査項目構築作業を継続することとなった。

④ 国研事務局内での検討

2010(平成22)年3月23日の全体打合会終了後，研究所内で研究室の引っ越し作業があり，3月24日から3月31日までは調査項目構築作業に従事できなかった。年度が変わった2010(平成22)年4月1日から引っ越し後の片付かない部屋でやっと作業再開となった。

吉田が2010(平成22)年3月22日・23日の全体打合会での検討内容を取りまとめ，調査項目候補の一覧を整理し直した。再確認，再検討すべき事項については，ワーディングの再検討が多かったが，その項目の選定者に作業を依頼した。このやりとりはメールで行った。

見直しの終わった全項目が吉田の手元に集まり，それをまとめて，調査票に掲載する文章としての統一をとる作業を行った。この時点で新規に加えたのは「項目のねらい」である。それまで各調査項目の「コメント」として記録していた様々な情報，例えば調査項目選定に当たり提案者が付したコメントや，検討の段階で出されたコメントなどをまとめたり，必要があれば共同研究者に個別に執筆を依頼したりしたものに，適宜吉田が改稿を加えて「項目のねらい」の記述としての統一をはかった。

加えて，調査票付図の総数を確認し，その中で既存の絵を再使用する項目と，新規の絵が必要な項目について確認した。

調査項目についてはこの段階まで作業を行った。大西の指示により，この時点で大西に調査項目の全データを引き渡し，調査票への最終整形作業は大西が担当することとなった。内容に関わらない整形作業をリーダーにさせるのは気が引けたが，大西の指示に従った。調査項目のデータを大西に引き渡したのは2010(平成22)年4月27日である。すなわち，WGが担当した調査項目構築作業はこの時点で一区切りがつけられたということになろう。最終整形作業を残し，WGの調査項目構築作業はいちおうの終了をみた。

調査項目の内容が完成し，以後，調査項目についての作業は調査票への整形が主となった。この作業は大西を中心に国研事務局が行った。2010(平成22)年5月22日・23日に共同研究者による全体打合会が開催されることになっており，その場でメンバーに調査票構成案を確認してもらうための作業を行った。調査票に掲載する文言について，統一が取れた整合性のあるものかを確認し，調査項目の一覧を作成した。

⑤ 全体打合会での確認

2010(平成22)年5月22日・23日の両日にわたり，方言分布Pの共同研究者が集まり全体打合会が開催された。ここでは全体打合会の内容にそって，調査項目に関わる事項について述べる。

「方言の形成過程解明のための全国方言調査」全体打合会

・日時：2010(平成22)年5月22日（土）9:00～20:10
　　2010(平成22)年5月23日（日）9:00～14:45

・会場：国立国語研究所　多目的室

調査項目に関する議事は初日の5月22日に行われた。5月22日出席者は朝日，新井，大西，沖，狩俣，岸江，木部，小西，渋谷，杉村，高木，竹田，都染，中井，松丸，三井，鑓水，吉田の18名。

最初の議題が「調査項目（調査票の構成）」であり，大西が発題した。資料「全国方言調査項目最終候補」にそって説明がなされ，全員で1つずつ順番に検討を行った。検討内容についてはその場で竹田が電子ファイルに加筆入力して記録した。

9:00から12:30までをこの議題にあてた。調査項目に関する，共同研究者全員での検討の機会はこれが最終となった。この場で出された内容については，以後，事務局が引き取り，作業内容に反映させることとなった。

この全体打合会で，この後検討した議題は以下である。調査方法・調査対象者，データベース化（報告と共有化），調査実施体制（共同研究者・調査協力者），研究推進体制（具体的な研究の進路），今後の予定，事務局の体制。

研究目的達成をめざしての項目構築は，議論に議論を重ねて，この日にやっと整う段階まで来た。次に上記の議題内容について，最後まで議論が重ねられた。これも，従来の国研による調査ではなく，前例のない，全く新規の，大学共同利用機関法人の人間文化研究機構の1組織となった「国立国語研究所」が行う大規模調査であったから，という面があ

ろう。

⑥ 国研事務局での作業

全体打合会の終了した2010(平成22)年5月24日以降，国研事務局が諸作業を引き取ることとなった。調査実施体制整備の手続き，調査方法の確定と調査マニュアルの作成，データベース構築作業，調査用品の作成と手配，調査説明会の開催準備など，調査実施に向けてより具体的な作業がなされるようになり，事務局内はこれまでの中で最も多忙な時期となった。

調査項目に関することとしては，次のような作業が行われた。全体打合会で検討し残された課題の解決，調査票の整形，調査票の校正，調査票の印刷発注である。調査票の整形は大西が担当した。調査票の校正は主担当として竹田が行い，鑓水，吉田も校正を行った。

印刷は絢文社に依頼し，表紙や本体の紙を選び，印刷仕様を指定して作成した。印刷仕様は次の通りである。

・形態：A4版，170ページ，無線綴じ製本，左綴じ

・用紙：表紙…色上質最厚口，白茶色

本文…上質紙44.5kg，白色

2010(平成22)年7月26日に，『全国方言分布調査　調査票』が完成し，200部が納品された。

6.5. 調査票付図の作成

① 作画依頼の経緯

方言分布プロジェクトの調査票付図の作画は，伊能洋(いのうひろし)先生に依頼した。伊能先生はそのお名前からも推察されるとおり，江戸時代に数々の日本の測量図「伊能図」を作成した伊能忠敬の直系子孫であり，LAJの調査票付図もお描きになった画家である。

伊能先生に調査票付図作成をお願いするのには，偶然ともいえる契機があった。2009(平成21)年7月12日，全国方言調査委員会にて準備調査内容の問題点の検討の際，調査票付図が話題となっていた際に，高橋委員が「徳川宗賢先生に聞いたことだが，LAJの調査票付図を描いたのは伊能忠敬の直系子孫の画家だそうだ」と発言した。吉田の家人に絵を学ぶ者がおり，師事するのが伊能忠敬直系子孫の伊能洋先生である。そのことを吉田が発言し，伊能先生に確認してみることになった。

2009(平成21)年7月17日，アトリエレッスンに行く家人に吉田はLAJの解説書を持たせ，この点について質問させた。果たしてLAJ調査票付図の作画者は伊能洋先生であった。伊能先生は奥様と共にLAJ解説書に掲載されている調査票付図を見ながら懐かしい，と驚かれたとのことであった。7月24日に，吉田がLAJ調査票付図作画の詳細について伊能先生にインタビューした。LAJ解説書には調査票付図の作画者については言及がなく，これまでこの絵を方言調査の場で実際に使用しながら，詳細については不明であったので，伊

能先生ご本人から貴重なお話をたくさんうかがうことができた。その内容については別稿とするが，全国方言調査委員会での高橋委員の発言と，その場に吉田がいたこととの偶然が重なって，LAJ 調査票付図の経緯が明らかになった。

高橋はその後の方言分布プロジェクト打合せの中で，今回の調査票付図作画を伊能洋先生に依頼することを提案し，共同研究者の賛同も得られた。

大西リーダーは吉田に，作画について伊能先生に打診するよう指示し，吉田は 2010(平成 22)年 4 月 30 日付の書簡で最初のおたずねをした。書簡の内容は，LAJ に引き続き国研で実施される全国方言調査において使用する絵も再び描いていただきたいこと，もしお引き受けいただける場合の作業内容や作業期間，現実的な問題としての謝礼についてのおたずねであった。これらをふまえてご検討いただきたい旨をお伝えした。

幸いなことに，2010(平成 22)年 5 月 7 日に伊能先生から快諾のお返事をいただいた。以後，吉田が伊能先生とのやりとりをふくめ調査票付図に関することを担当した。

伊能先生と国研方言調査との関わりは先述の通り偶然の契機から明らかになったことだが，何か因縁めいたものも感じずにはいられない。徳川先生はじめ泉下の先達たちが，日本地図を作成した偉人伊能忠敬と友となり，俗世の我々をお導きくださったのではないか，これはこのプロジェクトへの祝福ではないか，などと思いながら，吉田は伊能先生に作画を依頼した。

② 作画の依頼内容

調査項目が確定し，調査票付図が必要な項目が確定した段階で，伊能先生に具体的な作画依頼をした。依頼内容の準備を整え，2010(平成 22)年 7 月 4 日に諸書類を郵送した。送付したものは以下の 7 点である。

(1) 送付物一覧：A4 プリント 1 枚
(2) 依頼と作業要領について：A4 プリント 2 枚　…作業要領
(3) 伊能洋先生　作画項目一覧：A4 プリント 1 枚　…作画していただく 18 枚の一覧
(4) 作画項目について：A4 プリント 19 枚　…1 項目ずつの作画要領
(5) 「日本言語地図解説－方法－」部分コピー：B4 プリント 4 枚　…参考資料。(4) の中で適宜言及している。
(6) 全国方言準備調査絵カード票：B5 冊子 1 冊　…本調査調査票付図の参考イメージ見本として。
(7) 催主登録票：A4 プリント 1 枚　…謝金支払い口座問い合わせ用

以下，(2) 作画項目について，(3) 伊能洋先生　作画項目一覧，(4) 作画項目について，の内容を転載する。

「(2) 依頼と作業要領について」

以下の内容について，依頼申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

（1）内容

・国立国語研究所が実施する研究プロジェクト「方言の形成過程解明のための全国方言調査」の，調査に使用する絵の作成をお願いいたします。

（2）画材・印刷について

・絵は，モノクロペン画（『日本言語地図』と同様）としてください。

・画材一式は，伊能先生の方でご用意ください。

・調査用の絵は，最終的にB5サイズ冊子となります。そのサイズを勘案し，作画をお願い申し上げます。

（3）期間・日程について

・当初の予定より遅くなってしまいましたし，具体的な依頼内容をお示しするのはこれが最初ですので，御覧いただいた上で，いつごろまでに仕上がりそうか，伊能先生のお見立てを一度ご連絡いただけますでしょうか。申し訳ありませんが，お願い申し上げます。

・直接，ご説明をする方がよいということでしたら，アトリエにうかがいます。伊能先生のご都合の良い日をお知らせください。

（4）絵の受領について

・完成した絵は，吉田が受け取りにうかがってもよろしいですし，郵送宅配送等でお送りいただいてもけっこうでございます。

・当方が受け取りにうかがうということでしたら，伊能先生のご都合の良い日をお知らせください。

・宅配送御利用の場合は，国立国語研究所宛に着払いでお送りください。

・郵送御利用の場合は，後日，お立て替えいただいた郵便料金をお支払いいたします。

（5）謝金お支払いについて

・依頼申し上げた絵１８点全てをお納めいただいたのち，債主登録票にてご指定の口座にお振込みいたします。

（6）その他

・何かございましたら，いつでも吉田までご連絡ください。

・お手数をおかけしますが，何とぞよろしくお願い申し上げます。

「(3)伊能洋先生　作画項目一覧」（次ページに転載）

(3) 伊能洋先生　作画項目一覧（エクセル表）

伊能洋先生　　作画項目一覧　　2010年7月4日
国立国語研究所

No	分析対象の絵	質問文	新規or改訂
1	袴(はかま)	和服で，着物の上に着るもののうち，肩から腰までの丈のものを羽織（はおり）と言います。では，腰から足首までをおおうものは何と言いますか。	新規
2	旗(はた)	布や紙などで作って，竿（さお）の先に揚（あ）げてしるしとして使うものです。国や団体などを表すしるしとして，よく使われます。	新規
3	座布団(ざぶとん)	畳に敷いて，その上に座る四角な布団のことを何と言いますか。	新規
4	地図(ちず)	旅先で道が分からないときに見るものを何と言いますか。	新規
5	蟻地獄(ありじごく)	これは何と言いますか。軒下や神社の境内などの砂地で摺り鉢のような巣を作って，穴に落ちてくる虫を食べる虫です。大きく描くとこんな形をしています。	新規
6	蚕(かいこ)	これは何と言いますか。成長すると白っぽい色の糸をはいて繭を作ります。その繭から糸をとって，絹を織ります。	新規
7	南瓜(かぼちゃ)	これを何と言いますか。夏にとれる，つるになる大きな実です。	改訂
8	彼岸花(ひがんばな)	秋に真っ赤な色で咲くこのような植物を何と言いますか。	新規
9	蟹の甲羅(かにのこうら)	蟹（かに）の甲羅（こうら）のことを何と言いますか。	新規
10	柿の蒂(かきのへた)	果物の柿のへたの部分を何と言いますか。	新規
11	茄子や苺の蒂(なすやいちごのへた)	茄子（なす）や苺（いちご）のへたの部分を何と言いますか。	新規
12	定規(じょうぎ)	このような長さをはかる道具を何と言いますか。竹やプラスチックでできたかたいものです。	新規
13	黒板拭き(こくばんふき)	学校や公民館にあるもので，黒板にチョークで書いた字を消すのに使うこのような道具を何と言いますか。	新規
14	本(ほん)	読むもので，書店で買ったり，図書館で借りたりします。	新規
15	囲炉裏(いろり)	家の中にあって，火をたくこのような場所を何と言いますか。	新規
16	二人で担ぐ(ふたりでかつぐ)	これは，どうすると言いますか。二人で～。	改訂
17	二人で運ぶ(ふたりではこぶ)	掃除のために教室などを片付けるときに，二人で机の両側を持ち上げて運ぶことを，机をどうすると言いますか。	新規
18	鰤(ぶり)	この魚はブリ（鰤）です。出世魚と呼ばれ，大きくなるにつれて名前が変わると言われますが，どんな名前で呼んでいますか。	新規

1 / 1 ページ

「(4) 作画項目について」（添付の絵を除く抜粋転載）

凡例

No.

分析対象の絵

・新規 or 改訂の区別

Q. 質問文

作画について

○ ご注意いただきたい点を記しています。

※ 参考になるであろう絵を転載しています。準備調査で用いた絵や，「日本言語地図」で使われた絵で今回改訂していただくものを載せています。

■問い合わせ先

平日９：３０～１７：００

勤務先：吉田雅子

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2 国立国語研究所

No. 1

袴（はかま）

・新規

Q. 和服で，着物の上に着るもののうち，肩から腰までの丈のものを羽織（はおり）と言います。では，腰から足首までをおおうものは何と言いますか。

作画について

○ 男性の羽織袴姿をお示しください。

○ 男性は，中年くらいがよいです。伊能忠敬や坂本龍馬などのように人物が特定されないよう，かつ年齢も高すぎず若すぎず，ごく一般的な男性像をお願いいたします。

○ 袴を示す矢印は，入れないでください。参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説—方法—」コピーの，例えばｐ128「くるぶし」の絵では，くるぶしを示す矢印が入っていますが，このような矢印は，この「袴」の絵では避けてください。

○ 今回の作画では，全般にわたり，基本的に矢印は図の中に入れない方針です。

No. 2

旗（はた）

・新規

Q. 布や紙などで作って，竿（さお）の先に揚（あ）げてしるしとして使うものです。国や団体などを表すしるしとして，よく使われます。

作画について

○ 旗の絵をお示しください。

○ ごく一般的な旗をお願いいたします。どこかの国旗，県旗など，特定されるものは避けて

ください。

No. 3

座布団（ざぶとん）

・新規

Q. 畳に敷いて，その上に座る四角な布団のことを何と言いますか。

作画について

○ 無地の座布団をお示しください。

○ 座っている人は描かないで，座布団のみ示してください。

No. 4

地図（ちず）

・新規

Q. 旅先で道が分からないときに見るものを何と言いますか。

作画について

○ ごく一般的な地図としてお示しください。

○ どこかの地図だと特定される絵は避けてください。

※ 準備調査で用いた絵（大西所員作画）

No. 5

蟻地獄（ありじごく）

・新規

Q. これは何と言いますか。軒下や神社の境内などの砂地で摺り鉢のような巣を作って，穴に落ちてくる虫を食べる虫です。大きく描くとこんな形をしています。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説—方法—」コピーのｐ120 にある，一連の生物のような感じの絵をイメージしています。

○ 蟻が入る方がよいとお考えでしたら，入れてください。

※ 準備調査で用いた絵（不詳本より借用）

No. 6

蚕（かいこ）

・新規

Q. これは何と言いますか。成長すると白っぽい色の糸をはいて繭を作ります。その繭から糸をとって，絹を織ります。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説—方法—」コピーのｐ120 にある，一連の生物のような感じの絵をイメージしています。

○ 桑の葉が入る方がよいとお考えでしたら，入れてください。

No. 7

南瓜（かぼちゃ）

・改訂

Q. これを何と言いますか。夏にとれる，つるになる大きな実です。

作画について

○「日本言語地図」で作図していただいた絵の改訂でお願いいたします。

○ 真ん中のかぼちゃ１つのみを，お示しください。

No. 8

彼岸花（ひがんばな）

・新規

Q. 秋に真っ赤な色で咲くこのような植物を何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ126 にある「196 どくだみ」，「192 すみれ」の彼岸花版のような感じをイメージしています。

※ 準備調査で用いた絵（百科事典の挿絵より借用）

No. 9

蟹の甲羅（かにのこうら）

・新規

Q. 蟹（かに）の甲羅（こうら）のことを何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ120 にある，一連の生物のような感じの絵をイメージしています。

○ 「タラバガニ」「ケガニ」「マツバガニ」「サワガニ」のように蟹の種が特定されるような絵ではなく，絵本に出てくるような一般的な蟹をお示しください。

No. 10

柿の蔕（かきのへた）

・新規

Q. 果物の柿のへたの部分を何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ130 にある「281 西瓜」の柿版のような感じをイメージしています。

○ 四角っぽく平たい形の富有柿や，細長い形の筆柿のように，いくつかの種類の柿の絵を，へたの部分がよく見えるようにお示しください。

No. 11

茄子や苺の蔕（なすやいちごのへた）

・新規

Q. 茄子（なす）や苺（いちご）のへたの部分を何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 前項の「柿の蔕」と同じく，参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ130 にある「281 西瓜」の柿版のような感じをイメージしています。

○ 茄子と苺の絵を，へたの部分がよく見えるようにお示しください。

No. 12

定規（じょうぎ）

・新規

Q. このような長さをはかる道具を何と言いますか。竹やプラスチックでできたかたいものです。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 具体的なモノですので，参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ124 にある「154 まな板」のような感じをイメージしています。

※ 準備調査で用いた絵（大西所員作画）

No. 13

黒板拭き（こくばんふき）

・新規

Q. 学校や公民館にあるもので，黒板にチョークで書いた字を消すのに使うこのような道具を何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 具体的なモノですので，参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ124 にある「154 まな板」のような感じをイメージしています。

※ 準備調査で用いた絵（大西所員作画）

No. 14

本（ほん）

・新規

Q. 読むもので，書店で買ったり，図書館で借りたりします。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 具体的なモノですので，参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ124 にある「154 まな板」のような感じをイメージしています。

○本のみを示し，人の絵は入れないでください。

No. 15

囲炉裏（いろり）

・新規

Q. 家の中にあって，火をたくこのような場所を何と言いますか。

作画について

○「日本言語地図」の付図のような感じで，お示しください。

○ 家屋の一部ですので，参考資料としてお渡しした「日本言語地図解説―方法―」コピーのｐ128にある「248 襖」のような感じをイメージしています。

○ いろりは，地域ごとに形の違いがありますが，特に考慮せずごく一般的な囲炉裏の絵としてお示しください。

※ 準備調査で用いた絵（ネット上の挿絵より借用）

No. 16

二人で担ぐ（ふたりでかつぐ）

・改訂

Q. これは，どうすると言いますか。二人で～。

作画について

○「日本言語地図」で作図していただいた絵の改訂でお願いいたします。

○ 前の人も，右肩で棒を担ぐようにしてください。（方言調査でこの絵を示すと「二人とも同じ方で担がないとうまくいかない」と言われることがよくあるのです。）

No. 17

二人で運ぶ（ふたりではこぶ）

・新規

Q. 掃除のために教室などを片付けるときに，二人で机の両側を持ち上げて運ぶことを，机をどうすると言いますか。

作画について

○男性二人が机の両側を持ち上げて運んでいるところをお示しください。

○男性は，中年くらいがよいです。人物が特定されない，かつ年齢も高すぎず若すぎず，ごく一般的な男性像をお願いいたします。

No. 18

鰤（ぶり）

・新規

Q. この魚はブリ（鰤）です。出世魚と呼ばれ，大きくなるにつれて名前が変わると言われますが，どんな名前で呼んでいますか。

作画について

○鰤は出世魚ですが，その最終段階の鰤の絵をお示しください。

○稚魚・幼魚段階の，小さな魚の絵は不要です。

※ 準備調査で用いた絵（百科事典の挿絵より借用）

（転載以上）

③ 作画の作業経過

2010(平成22)年7月9日に，吉田は伊能洋先生の主宰する伊能アトリエにうかがった。先に郵送した作業要領の内容に即して，直接伊能先生にいろいろと説明申し上げた。この時すでに伊能先生はいくつかのラフスケッチを描かれていたし，その場で「こういう感じではどうか」と描いてくださるものもあり，それを現場で拝見するだけで胸躍って，画家が絵を描いていく過程を見れるとは役得だと感じ入ったことであった。

2010(平成22)年7月30日に，再び伊能アトリエにうかがい，新たに描いていただいた幾点かの絵を拝見しながら，作成途中のものについて説明と打合せを行った。

2010(平成22)年8月6日には，事務局の竹田，鑓水，吉田の3人で伊能アトリエにうかがった。すでにペン入れがなされた絵を拝見しながら，さらに手を加えていただきたい点など最終確認のお願いを申し上げた。完成している絵も多かったが，全部まとめて受領することとし，この日には持ち帰らなかった。

調査票付図についての仕事の話が終わった後は，LAJ 調査付図について，伊能先生の芸術活動について，様々なお話をうかがうことができた。また実物の伊能図も見せていただきながら，伊能図や伊能忠敬についてのお話もうかがった。あっという間に感じられた長い時間をアトリエで過ごさせていただいて，記念写真も撮影して，アトリエを退出した。

伊能先生からご連絡をいただき，絵を受け取りに伊能アトリエにうかがったのは2010(平成22)年8月12日であった。この時に，依頼した18枚の調査票付図全部を受領した。このあとも伊能先生とアトリエで，芸術について，学術について，様々なお話をして後，帰路についた。

熱中症で幾人もの死者を出し社会問題にもなった記録的な猛暑の2010年夏に，伊能先生はすばらしいスピードで調査票付図を描き上げてくださった。

伊能先生のアトリエで過ごす時間は至福のものであったし，調査票付図全原画を最初に拝見したという喜びも味わって，吉田には役得であった。

④ 調査票付図の整形作業

この後，事務局の方で調査票付図の整形作業を行った。新規作画の絵，既存の絵を，スキャナで読み取り，版下を作成して，そのデータを印刷会社に渡した。印刷は調査票と同じく，絢文社に依頼した。

調査票付図は調査期間を通して使用するものであるため，丈夫なものにしようと，表紙や本体の紙を選び，リング綴じのリングを選んだ。印刷仕様は次の通りである。

・形態：B5版，39ページ，リング綴じ製本，左綴じ

・用紙：表紙…レザック66　260kg，からし色

　　本文…上質紙　135kg，白色

『全国方言分布調査　調査票付図』が納品されたのは，2010(平成22)年9月28日であった。

調査項目に関連するものとしては『全国方言分布調査　調査票』と『全国方言分布調査調査票付図』，その他の調査用品一式も揃えて，共同研究者・調査協力者百名弱に発送したのは『全国方言分布調査　調査票付図』納品翌日の，2010(平成22)年9月29日であった。手分けしつつの梱包，搬出，発送作業はいっぱしの肉体労働であった。

以上，本章では，調査項目構築作業の，実際の作業過程に沿いながら，作業の概要(6.1.)，調査項目選定の基本方針（6.2.），共同研究者による項目選定（6.3.），調査項目候補の検討内容（6.4.），調査票付図の作成（6.5.）について述べた。